



「まるごとキャンパス八王子」 ～学生、人材が「集う」まちに～

八王子市は、市域に21の大学等が立地する全国有数の学園都市としての特徴を活かし、約50年に亘り、大学等との連携によるまちづくりを「学園都市づくり」と位置付けて取り組んでいます。

この度、平成29年（2017年）4月に策定した「はちおうじ学園都市ビジョン」を改定し、「第2期はちおうじ学園都市ビジョン」を策定しました。令和5年（2023年）4月にスタートした「八王子未来デザイン2040」の計画期間に合わせ、2030年の目指す姿に対応した7つの基本施策を推進し、大学等と地域が互いに交わり、支え合い、更には共創により新たな価値を創出することを通して、ともに発展するまちづくりの実現を目指します。

大学等と地域がともに発展するまちづくりを実現するためには、大学等が八王子市内の地域を実践の場として行う教育を支援し、地域の活性化につなげる必要があり、地域全体が学びの場となり、大学等と地域が連携し合う、「まるごとキャンパス八王子」の推進が重要です。

本ビジョンを今後7年間の道標として、地域連携プラットフォームである大学コンソーシアム八王子の場を活用しながら、活力ある活気あふれる「学園都市八王子」を目指して施策を展開してまいりますので、学園都市づくりに関与いただく全ての皆様に、今後とも、より一層の御理解、御協力をお願い申し上げます。

結びに、本ビジョン策定に御尽力いただきました「第2期はちおうじ学園都市ビジョン検討会」の皆様をはじめとする大学等関係者の皆様、各種調査を通じて意見をお寄せいただきました市民の皆様に心から御礼申し上げます。



令和6年（2024年）8月

八王子市長 初宿 和夫

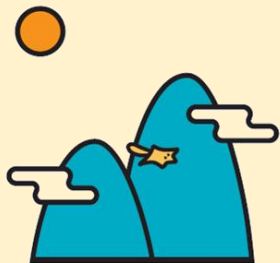


目次

第1章 策定にあたって	3
1 策定の趣旨	4
2 位置づけ	5
3 計画期間	6
第2章 「学園都市八王子」を取り巻く状況	7
1 国の動向	8
2 前計画「はちおうじ学園都市ビジョン」の成果	10
3 八王子市の現状	18
4 大学等の現状	19
5 学生の現状	21
第3章 ビジョンの全体像	25
1 基本理念・キャッチフレーズ	26
2 7つの基本施策	26
3 指標	29
第4章 基本施策	31
第5章 ビジョンの推進にあたって	47
1 推進体制	48
2 進行管理	50
資料編	51

第1章

策定にあたって



1

策定の趣旨

本市は、昭和30年代から大学の進出が始まり、令和6年度（2024年度）現在では、市内に21の大学・短期大学・高等専門学校（以下「大学等」という。）が立地し、約9万人の学生が学んでいます。

この「学園都市八王子」としての特徴を活かして、平成15年（2003年）8月に大学等連携担当職員を配置する学園都市文化課を設置し、平成21年（2009年）4月には大学等とともに大学コンソーシアム八王子を設立しました。そして、平成29年（2017年）4月に、学園都市づくりを計画的に推進するため、分野別計画となる前計画「はちおうじ学園都市ビジョン」を策定し、地域社会の発展と高等教育の充実を目指して様々な施策を展開してきました。

少子高齢化などに起因する厳しい社会環境の変化が見込まれる2040年を見据え、本市は、行政が市民や企業、大学などと目標を共有し、様々な変化に柔軟に対応しながら協働のまちづくりを進めることで地域全体が維持・発展することを目指しており、大学等をまちづくりにおける重要なパートナーとして捉えています。

大学等の高等教育機関は、教育と研究という本来的な機能の発揮を通じて、社会や経済を基盤として支えています。

大学等と地域が連携するうえでは、大学等が、様々な課題が生じる最前線である地域を「社会的な実践の場」として教育研究活動を展開し、この取組を通して地域が活性化される、このような好循環を生み出していけるような関係性を築く必要があります。

このような状況を踏まえ、大学等と本市が、支え合いながら発展していくにあたり、目指すべき姿を定め、この実現に向けて相互に協力して取り組むうえでの道標とするため、「第2期はちおうじ学園都市ビジョン」（以下「本ビジョン」という。）を策定しました。

本ビジョンは、基本構想・基本計画「八王子未来デザイン2040」に掲げるまちづくりの基本理念「人とひと、人と自然が響き合い、みんなで幸せを紡ぐまち八王子」の実現に向け、学園都市づくりの基本理念と基本方針を明確にするものです。

なお、学園都市づくりは、様々な施策分野と連携して効果を発揮するものであるため、各分野別計画との連携を図りつつ取組を進めていきます。

基本構想・基本計画 「八王子未来デザイン2040」



学園都市づくりの基本理念・
基本方針の明確化

「第2期はちおうじ学園都市ビジョン」

連携

八王子市
の
分野別計画

3

計画期間

基本構想・基本計画「八王子未来デザイン2040」の計画期間に合わせ、令和6年度（2024年度）から令和12年度（2030年度）までの7か年とします。

八王子市におけるSDGsの取組

SDGs（Sustainable Development Goals：持続可能な開発目標）とは、平成27年（2015年）9月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」で示された17ゴールと169ターゲットです。発展途上国向けの開発目標である「MDGs（ミレニアム開発目標）」の後継として採択され、発展途上国のみならず、先進国を含む国際社会全体の開発目標です。地球上の「誰一人として取り残さない」社会の実現を目指し、経済・社会・環境をめぐる広範囲な課題に対する総合的な取組が示されています。

本市においては、基本構想・基本計画「八王子未来デザイン2040」における基本理念「人とひと、人と自然が響き合い、みんなで幸せを紡ぐまち八王子」が、SDGsに掲げる持続可能な社会の実現と方向性が一致していることから、基本計画に定めた37の施策を着実に実行することで、17のゴールの達成へ貢献していくことを掲げています。

基本理念を「大学等と地域がともに発展するまちづくり」とする本ビジョンにおける取組は「17 パートナリシップで目標を達成しよう」を中心にあらゆるゴールにつながっています。基本施策に掲げる各取組を推進することで、引き続きSDGsの達成に貢献していきます。



第2章

「学園都市八王子」を 取り巻く状況



1 国の動向

(1) 大学等の在り方

デジタル化や脱炭素化といったメガトレンドは、必要とされる能力やスキルを変え、職種や産業の労働需要を大きく増減させる可能性があります。（経済産業省「未来人材ビジョン」より）

こうした中、未来を支える人材を育成・確保するためには、教育を含む社会システム全体の見直しが必要となります。大学等の高等教育機関には人材育成の中核を担うことが期待され、成長分野への学部再編など、その機能強化の必要性が指摘されています。

またこの他に、国としても奨学金支援制度の充実などによる、誰もがその意欲に応じて学ぶことのできる環境整備や人生100年時代に向けた学び直し（リカレント教育）を促進するための環境整備を進めるとしています。

コラム

未来を支える人材像

国では「好きなことを追求して高い専門性や技術力を身に付け、自分自身で課題を設定して、考えを深く掘り下げ、多様な人とコミュニケーションをとりながら、新たな価値やビジョンを創造し、社会課題の解決を図っていくことのできる人材」を未来を支える人材像として挙げています。

出典：教育未来創造会議※「我が国の未来をけん引する大学等と社会の在り方について（第一次提言）」

※ 教育未来創造会議

国の未来を担う人材を育成するためには、高等教育をはじめとする教育の在り方について、国としての方向性を明確にするとともに、誰もが生涯にわたって学び続け学び直しができるよう、教育と社会との接続の多様化・柔軟化を推進する必要があるとして令和3年（2021年）12月から開催されています。

(2) 地域と大学等の連携

人口減少をはじめとした、社会の劇的な変化を踏まえ、近年、地域における大学等の役割に対して、今まで以上に注目が集まっています。

大学等には地域の人材育成や課題解決に向けて、地域ならではの学びやイノベーションの創出が求められ、それらは、各大学等の「特色」や「強み」ともなります。また、大学等が地域の中核的な拠点となるにあたっては、地域のために大学等が貢献するとともに、地域が大学等と一緒に取組を進めていく、そのような大学等と地域の関係の構築が重要です。

そこで国では、地域の核として、地域の産業界等と連携して地域課題の解決や地域が求める人材の養成に貢献する大学等の支援や産学官連携によるイノベーションプラットフォーム整備を推進するほか、地域連携プラットフォームの構築に関するガイドラインの策定や大学等連携推進法人の制度化により、大学等と地域の産業界や地方公共団体との連携や、地域の大学間での連携を推進しています。

コラム

地域における大学等の役割

地域において大学等が果たす重要な役割は下記1～4のように、様々に存在します。

- | | |
|-----------------------|----------------------|
| 1 人材育成機関としての役割 | 3 地域の文化・歴史を発展・継承する役割 |
| 2 高度な研究能力を有する機関としての役割 | 4 知と人材のハブとしての役割 |

【大学等にとっての地域の魅力】

- (1) 学修のフィールド
- (2) 様々な経験の場
- (3) イノベーション創出のきっかけとなる地域課題の宝庫
- (4) DX・グローバル化の最前線

【大学等が地域で求められる取組】

- (1) 産学官連携
- (2) 人材が集まる「魅力のある地域」、地域の課題解決や地域経済の発展を支え地域に貢献する「地域の中核となる大学」を目指す取組

出典：中央教育審議会大学分科会「これからの時代の地域における大学の在り方について－地方の活性化と地域の中核となる大学の実現－」

2

前計画「はちおうじ学園都市ビジョン」の成果

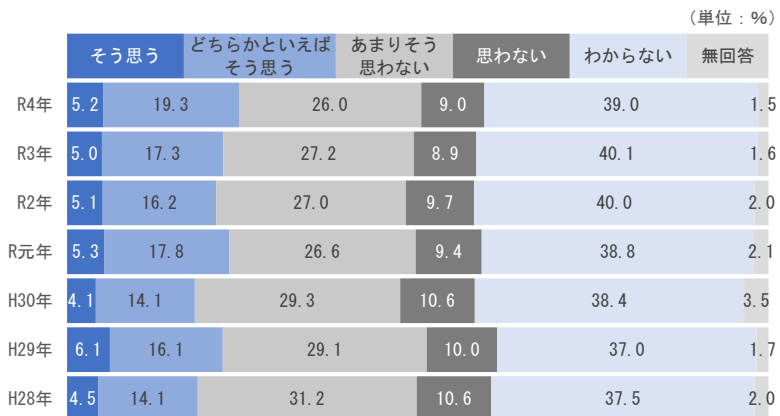
前計画「はちおうじ学園都市ビジョン」（計画期間：平成29年度（2017年度）～令和5年度（2023年度））では、「【基本理念】大学等と地域がともに発展するまちづくり」のもと、地域で学生が「学び」「育つ」、さらには学生が八王子の魅力を発見し、「働く」または「暮らす」場となることを目指し、7つの基本方針と全体の共通方針を定めました。

7年間の取組を振り返り、その成果を第2期として策定する本ビジョンに反映しています。

【アウトカム指標】

大学等や学生がまちづくりに関わっていると
実感している市民の割合

目標値を概ね達成しました。このことから、連携協力事業実施の
積み重ねによる成果が市民の実感として顕れたと考えられます。

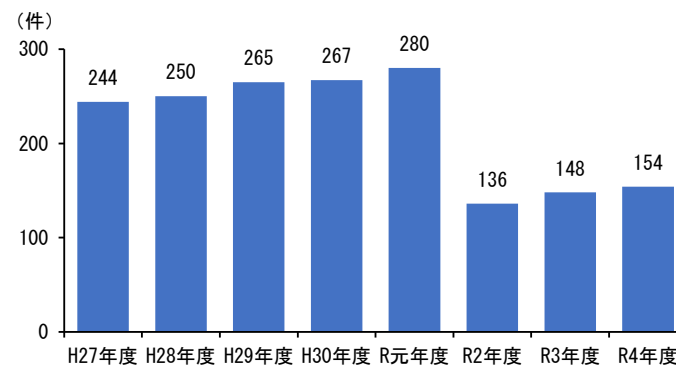


出典：市政世論調査

【アウトプット指標】

大学等と本市との連携協力事業数

令和元年度（2019年度）にかけて増加傾向、コロナ禍に
ボランティア関連事業の休止等に伴い減となりましたが、
徐々に件数が回復しました。



出典：学園都市文化課調査

基本方針1 地域連携支援

重点取組 大学等が行う地域の人材と資源を活用した課題解決型学習など、実践的な教育の支援に重点をおいて、大学等と地域との連携を推進します。

- ・PBL（課題解決型学習）授業参加やインターンシップ・ヒアリングの受入、協働プロジェクトの実施を通して、地域の課題解決に取り組む教育の支援及び専門人材の育成に取り組むとともに、地域課題の解決や学生に地域への関心を喚起するきっかけづくりを進めました。

景観絵本「八王子まちなか景観みらいものがたり」 の実現に向けた取組 【工学院大学・東京都立大学】

本市の中心市街地における景観づくりの目標像を描いた提案書である「八王子まちなか景観みらいものがたり」（令和4年（2022年）8月発行）の実現に向け、3つのプロジェクトに取り組みました。



ネクストアクションプロジェクト
（東京都立大学）



「そめる」プロジェクト
（東京都立大学）



数値空間からまちをり・デザインするための調査研究
（工学院大学）

八王子市における図書館整備及び読書環境等の向上に 関する共同研究【中央大学】

市図書館と中央大学文学部社会情報学専攻チームが連携し、大学の専門的知見による調査・データ分析、検証作業等を通じて、図書館施策につなげていく取組として共同研究を平成29年（2017年）より実施しています。

令和3年度（2021年度）学生報告会の様子
写真提供／中央大学



災害対策医薬品供給車両（モバイルファーマシー）の運用に向けた協定締結 【東京薬科大学】

災害時に、避難所等へ薬剤を供給する機能を有する災害対策医薬品供給車両「モバイルファーマシー」を所有する東京薬科大学と八王子薬剤師会及び本市の3者で令和元年（2019年）に協定を締結し、車両の効果的な運用を図っています。

新型コロナウイルスワクチン接種会場の一部では、東京薬科大学の実務家教員（薬剤師）派遣とともにワクチン調製（希釈と分注）の作業場所として出動しました。



写真提供／東京薬科大学

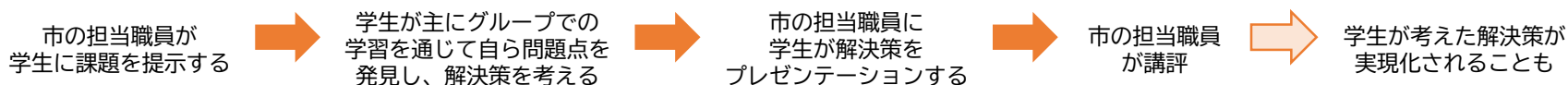
Project Based Learning

(「問題解決型学習」または「課題解決型学習」)

文部科学省が推進する「アクティブラーニング（学修者の能動的な学修への参加を取り入れた教授・学習法の総称）」のひとつの教育方法です。正解のない問題に対して知識を組み合わせることで解決へと導く能力を養うことを目的としており、答えをどのように導き出したのかという過程が重視されます。

大学等は、自治体や民間企業と連携し、課題を実社会に設定する実践体験型のPBLに取り組んでいます。

PBL授業の主な流れ



八王子市 ～行政課題の提供～

- ・ 大学等の知により課題が解決される
- ・ 授業における取組を通して学生への啓発が進む
- ・ 学生が市の課題に対する関心や理解を深めることで、市への愛着醸成につながる
- ・ 授業参加を通じた職員のスキルアップ

大学等 ～学生の実践的な学び～

- ・ 実社会で学ぶことで、より実践的で役立つ力（主体性、推進力、状況に応じて判断して行動する力）を養う
- ・ 学生が自己肯定感を得る
- ・ 学生の地域社会や社会人、仕事に対する理解を深める
- ・ 学生のキャリア形成を促進する

過去に本市が参加したPBL授業の例

明星大学 経済学部「課題解決ワークショップ」

- 【過年度課題（テーマ）の一部】
- ・ 大学生の自転車マナー向上
 - ・ 若者向け相談窓口が学生に身近な存在となるには
 - ・ 図書館サービスの新たな展開



授業の様子 写真提供／明星大学

中央大学 ファカルティリンケージ・プログラム(FLP) 地域・公共マネジメントプログラム

- 【取組テーマの一部】
- ・ 性的マイノリティを含むすべての若者が暮らしやすい街づくり
 - ・ 外国人留学生の交流機会への参加促進



授業の様子 写真提供／中央大学

基本方針2 産学公連携支援

重点取組 理系・文系の幅広い分野の調査・研究と企業などを結びつける支援に重点をおいて、産学公連携を推進します。

- ・市主催イベントや八王子商工会議所所掌「出前研究室」において、大学コンソーシアム八王子が参加校を増やし、そこでのコーディネートなどを通して、産学公連携のネットワーク強化を図りました。
- ・「八王子市産学連携による研究・開発費等補助金」や「経営力強化補助金」、「八王子市新産業創出センター」の開設による新技術・新製品の開発支援を通して、産学公連携による共同研究・開発を支援しました。

地域に根差したビール作り【東京薬科大学】

高尾ビール（株）と東京薬科大学生命科学部食品科学研究室は、令和元年（2019年）から協力して「八王子」というキーワードのもとでコラボビールの研究開発に取り組んでいます。

八王子地域への研究成果の還元のみでなく、原料として使用する地域特産の農産物の生産者との新たな連携や、八王子市を訪問する観光客向けの土産品としての需要など、八王子地域全体の振興への貢献が大いに期待されています。



東京薬科大学植物園などで育った植物由来の酵母・乳酸菌を使用したビール
写真提供／東京薬科大学

出前研究室 【八王子商工会議所・大学コンソーシアム八王子事業】

市内中小企業に直接大学等の教員や学生が出向き、講義や技術相談などのサポートを行います。

産学連携及び地域活性化を進めることを目的として、平成30年度（2018年度）に八王子商工会議所と工学院大学が共同で開始しました。令和4年度（2022年度）からは大学コンソーシアム八王子とも連携しており、令和5年度（2023年度）現在では10校の大学等が参加しています。

八王子産酒米米粉を利用したバイオプラスチックの製品開発 【創価大学】

創価大学理工学部共生理工学科丸田ゼミナールでは、平成28年度（2016年度）から、NPO法人はちぶろと連携して八王子の吟醸酒「高尾の天狗」を製造する過程で発生する副産物の米粉を利用した加工製品の開発を開始しました。

スイーツや『食べられるスプーン』を開発、また八王子産米の米粉51%を含むバイオプラスチックのペレットの製造に至りました。

このペレットをもとに（株）セイホーと連携して開発した、市の木であるイチョウとモミジを象ったクリップは市のイベントでノベルティとしても採用されています。



写真提供／創価大学

この取組は、市の食品ロスやプラスチックごみの削減といったSDGsの推進に貢献することが期待されています。

基本方針3 学生活動支援

重点取組 学生が自ら企画・実施する課外活動と地域を結びつける支援に重点をおいて、学生活動を支援します。

- ・「市民企画事業補助金」や大学コンソーシアム八王子「学生企画事業補助金」で学生活動の振興を図りました。
- ・市や地域の活動団体によって、学生ボランティア活動の充実が図られました。
- ・市では学生が参加可能なボランティア活動について情報を集約し、大学等への提供及び活動実施のサポートを行いました。

世代間交流八王子駅前サロンプロジェクト【多摩大学】

多摩大学経営情報学部梅澤ゼミナール、市、市民生委員・児童委員、ボランティア、市高齢者あんしん相談センターが協働して平成28年（2016年）から「駅前サロン」（高齢者サロン）を運営しています。

学生がサロンの企画運営やチラシ、ポスターなど掲示物の作成を主に担当。外出自粛が続いたコロナ禍には、交流を継続するために、「オンライン駅前サロン」の企画や「駅前サロン通信」の発行に取り組みました。



学童保育所で活動する東京工科大学学生
写真提供／NPO法人明神学童育成の会



団地の活性化に取り組む学生
法政大学S I C「館ヶ丘プロジェクト」

基本方針4 学生の就職支援

重点取組 地域企業と連携した学生のキャリア形成の支援に重点をおいて、学生の就職を支援します。

- ・多摩地域合同の就職説明会や「はちおうじ就職ナビ」、「はちおうじ若者奨励金（令和4年度（2022年度）受付終了）」や「八王子市定住促進奨学金返還支援事業」の利用促進を通じて地域企業と学生のマッチングを図りました。
- ・大学コンソーシアム八王子「学生発表会」で市内企業の魅力を学生にPRする機会を設けました。

はちおうじ就職ナビ

平成24年（2012年）に都内初の自治体が運営する学生向け就職サイトとして運用を始めた新卒求人情報を中心として、市内の様々な企業の概要や求職情報を紹介するサイトです。就活生へのアドバイスや若手社員紹介なども掲載しています。

基本方針5 生活環境支援

重点取組 学生の生活環境の向上と、大学等に関わる都市基盤の整備に重点をおいて、学生と大学等を取巻く環境の整備を推進します。

- ・消費生活や健康に関してなど、学生の安心安全な生活環境を整えるための意識啓発をポスター、チラシの配布等を通して行いました。
- ・学生を含む市民の利便性の向上のため、シェアサイクルやバスロケーションシステム、ノンステップバス等の導入促進を通じた公共交通機関の充実を図りました。

BIGWEST「新入生のための生活便利帳」

昭和60年代から、新入生を中心とした学生に本市で送る学生生活について、情報を伝えることを目的とした情報紙を発行しています。
(制作・編集を八王子市学園都市推進会議(P.49参照)が担当)

市では、行政手続きやごみ出し、相談窓口などの生活で必要となる情報や文化施設や運動施設、ボランティアの募集情報などの生活をより充実させるための情報を集約して掲載しています。



シェアサイクルの導入

回遊性向上による地域や観光の活性化や公共交通の補完、環境負荷低減、健康増進等を目的として、民間事業者との共同によりシェアサイクルを導入しています。

大学等のキャンパス内にも設置することで、大学等に通学する学生や職員等の利便性向上を図っています。



多摩美術大学キャンパス内に設置されているポート

基本方針6 留学生支援

重点取組 地域社会への参加と交流する機会の創出に重点をおいて、留学生を支援します。

- ・「外国人留学生奨学金（令和2年度（2020年度）受付終了）」や「助っ人留学生制度」で、外国人留学生ならではの視点や語学力などの能力が活かされることで地域活性化が図られるように、外国人留学生と地域とのマッチングを進めました。
- ・地域のお祭りや小・中学校授業への外国人留学生の参加を支援しました。
- ・「在住外国人サポートデスク」や「留学生のための住居賃貸代行保証料補助金」、大学等担当者間の情報共有の充実を通して外国人留学生の生活を支援しました。
- ・日本語能力試験受験料の補助や、イベント実施による市内企業の紹介を通して、外国人留学生の進路支援を行いました。

基本方針7 生涯学習推進

重点取組 様々な市民のニーズに対応した学習機会の提供に重点をおいて、生涯学習を推進します。

- ・八王子学園都市大学（いちょう塾）は、最大で年間約300講座を開講し、約7,000人が受講するなど、広く大学等の学びを提供しました。
- ・「八王子リカレント教育支援アプリ（はちりカ）」で講座情報の周知活動を行い、社会人を含む、より多くの市民の学習機会の確保に努めました。
- ・八王子に関連した提供講座を充実させるとともに、大学等図書館に要望に応じて資料提供を行いました。
- ・大学等施設の開放状況の公開などを通して市民の生涯学習の推進を図りました。

八王子リカレント教育支援アプリ「はちりカ」

キャリア形成に役立つ講座情報のほか、人生を豊かにする多彩な講座の情報を掲載しています。

市主催講座の他にも、大学等の公開講座などの情報を調べることができます。



共通方針 学園都市ブランドの強化

重点取組 市民、学生、教職員それぞれが、八王子に大学等が立地する魅力を感じられるよう、「学生が育つまち」としての情報発信に重点をおき、学園都市ブランドの強化に取り組めます。

- ・「八王子市シティプロモーション基本方針」及び「八王子市まち・ひと・しごと創生総合戦略」において「20～30代の若年層と大学生」を重点ターゲットと位置づけて、本市への誇りと愛着の醸成につながるよう戦略の方向性を定め、情報発信などを図りました。
- ・「大学等や学生がまちづくりに関わっていると実感している市民の割合」（市政世論調査）は、平成27年度（2015年度）の18.6%から令和4年度（2022年度）には24.5%に上昇しました。



JR八王子駅前などで東京箱根間往復大学駅伝競走出場校応援ブースを設置

ヤマザキ動物看護大学の
新入生向けガイダンスで
市、大学コンソーシアム
八王子及び八王子学生委
員会が本市についてPR



高校生向けに
大学コンソー
シアム八王子
に加盟する大
学等を紹介す
るリーフレッ
トを発行



大学等の「知」で育つ子どもたち

大学コンソーシアム八王子や各大学等では、学ぶことへの関心・意欲を高めることを目的として、各大学等の特色を活かした特別講座などのイベントを地域に向けて開講しており、本市では多くの子どもたちが大学等の「知」に触れながら育っています。

大学コンソーシアム八王子「夏休み子どもいちよう塾」

夏休みに大学コンソーシアム八王子加盟校の教員や学生が講師となる特別講座を、市内在住在学の小学4～6年生を対象として開講。毎年約500名の小学生が参加しています。



山野美容芸術短期大学
ヘアアレンジに挑戦してみよう



拓殖大学
ロボット・カーを作ろう



東京造形大学
シルクスクリン



日本文化大学
君も裁判員に挑戦しよう！



サレジオ工業高等専門学校
作って遊ぼう「イライラ棒」

多摩美術大学「あそびじゅつ」

小・中学生を対象とした公開講座です。

つくる、見る、考えるという「あそび」を通し、世界をひろげていくプログラムを展開しています。



写真提供／多摩美術大学

ヤマザキ動物看護大学「子ども体験塾」

市内在住の小学生を対象とするイベントです。

動物看護実習、グルーミング実習、野生動物学などのミニ授業を実施しています。



写真提供／ヤマザキ動物看護大学

東京工業高等専門学校 「学生によるプログラミング教育出前授業」

学生が小中学生向けのプログラミング学習教材の開発と教育手法の構築を行い、学生講師による出前授業を行っています。



写真提供／東京工業高等専門学校

東京純心大学「純心こどもの国のクリスマス」

実行委員会の学生達が学びの一環として企画するクリスマスイベントで、毎年200名を超える近隣の子もたちが参加しています。



写真提供／東京純心大学

桜美林大学「スポーツフェスタ」

特別強化クラブに所属する学生が指導役となり、子どもたちに様々なスポーツを体験するきっかけづくりとして実施されているイベントです。



写真提供／桜美林大学

デジタルハリウッド大学「ドローン教室」

市とのドローンの活用に向けた人材育成に関する協定の締結に伴い、小学校でドローンを操縦する体験会を行っています。



写真提供／デジタルハリウッド大学

3

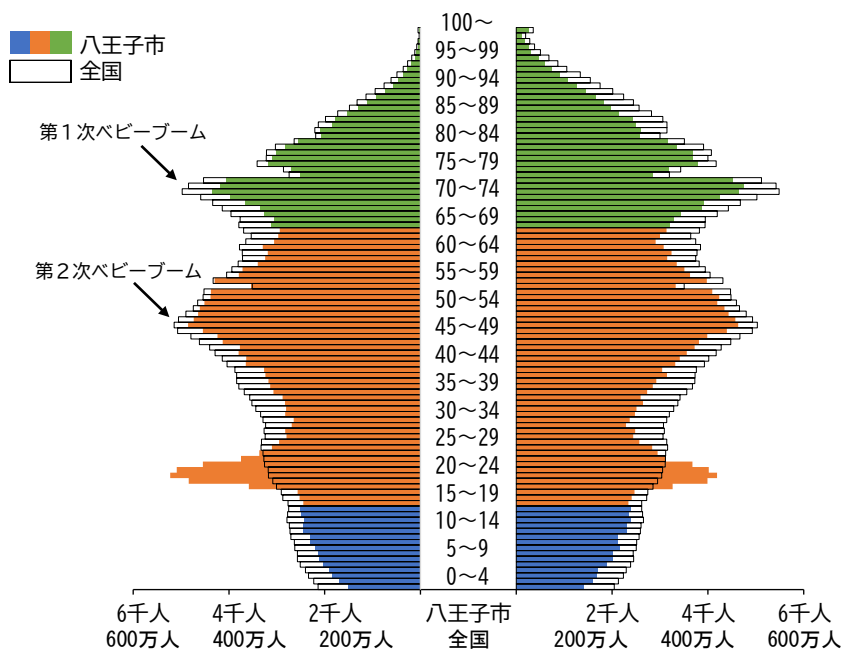
八王子市の現状

「学園都市八王子」における人口動態の特徴として、大学等の入学・卒業年代の転入・転出がともに著しく多い点が挙げられます。この傾向は前計画「はちおうじ学園都市ビジョン」策定時から大きく変化していません。

(1) 年齢別人口構成

第1次・第2次のベビーブーム世代の人口集中に加え、本市の学園都市という特徴を表して、10代後半から20代前半世代にも人口集中が存在しています。

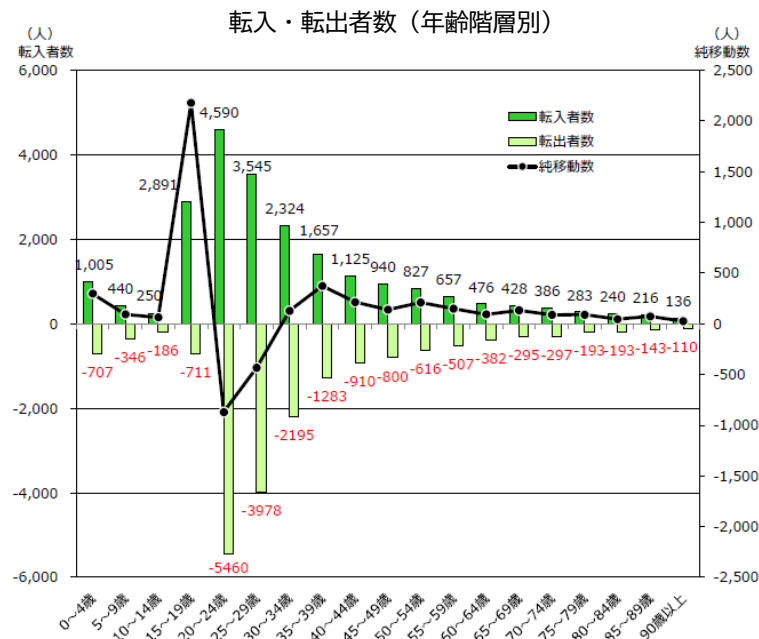
年齢別人口構成（八王子市と全国の比較）



出典：令和2年（2022年）国勢調査をもとに作成

(2) 転入・転出者数

10代後半に大幅な転入超過となっています。一方、20～24歳と25～29歳は転出超過となっています。



出典：八王子市人口ビジョン

4

大学等の現状

(1) 大学等(八王子(多摩等)キャンパス)学生数の推移

令和5年度(2023年度)現在、市内には21校の大学・短期大学・高等専門学校が立地し、約9万人の学生が学んでいます。

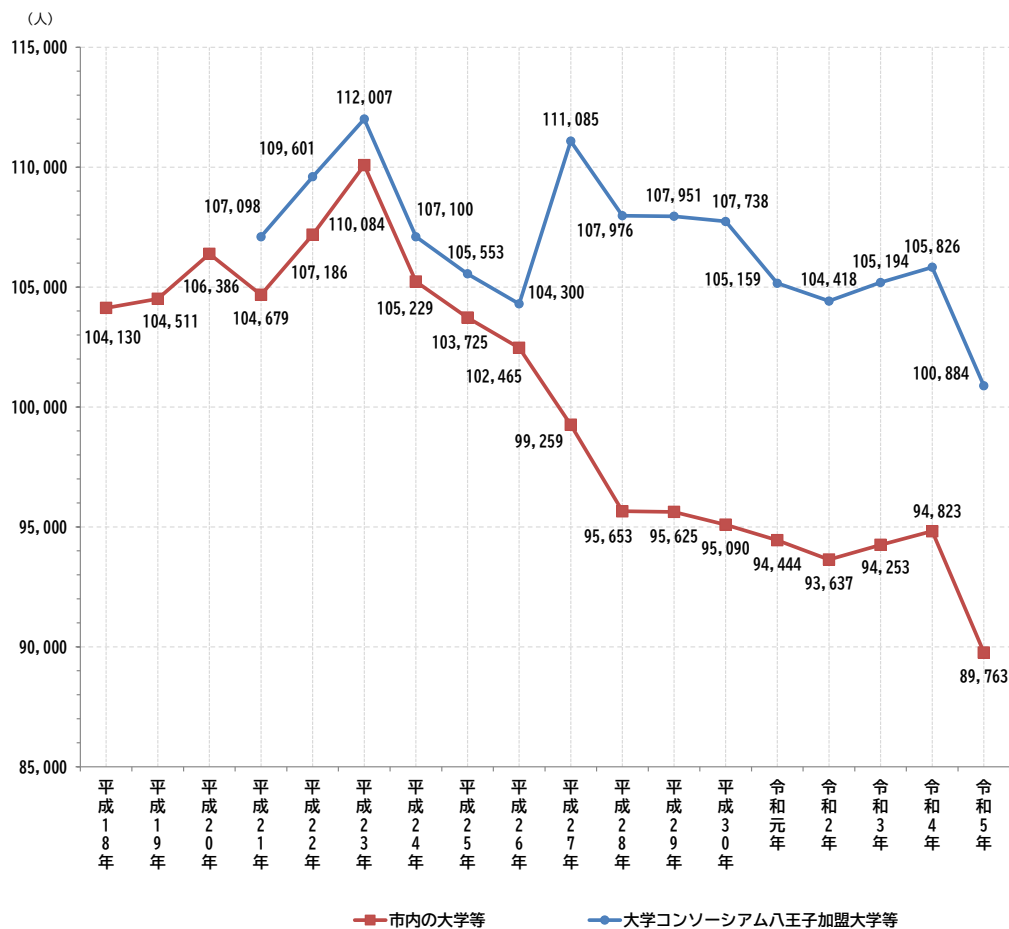
また、本市が加盟、その活動を支援する、大学コンソーシアム八王子に加盟する25校(上記21校を含む)では、約10万人の学生が学んでいます。

八王子(多摩等)キャンパスにおける学生数は減少傾向にあり、今後の18歳人口の減少も鑑みると大幅な増加は見込まれないことが予想されます。

(2) キャンパス整備の流れ

本市への大学等立地は昭和30-60年代を中心として進められ「学園都市八王子」が形成されてから40年以上が経過しています。

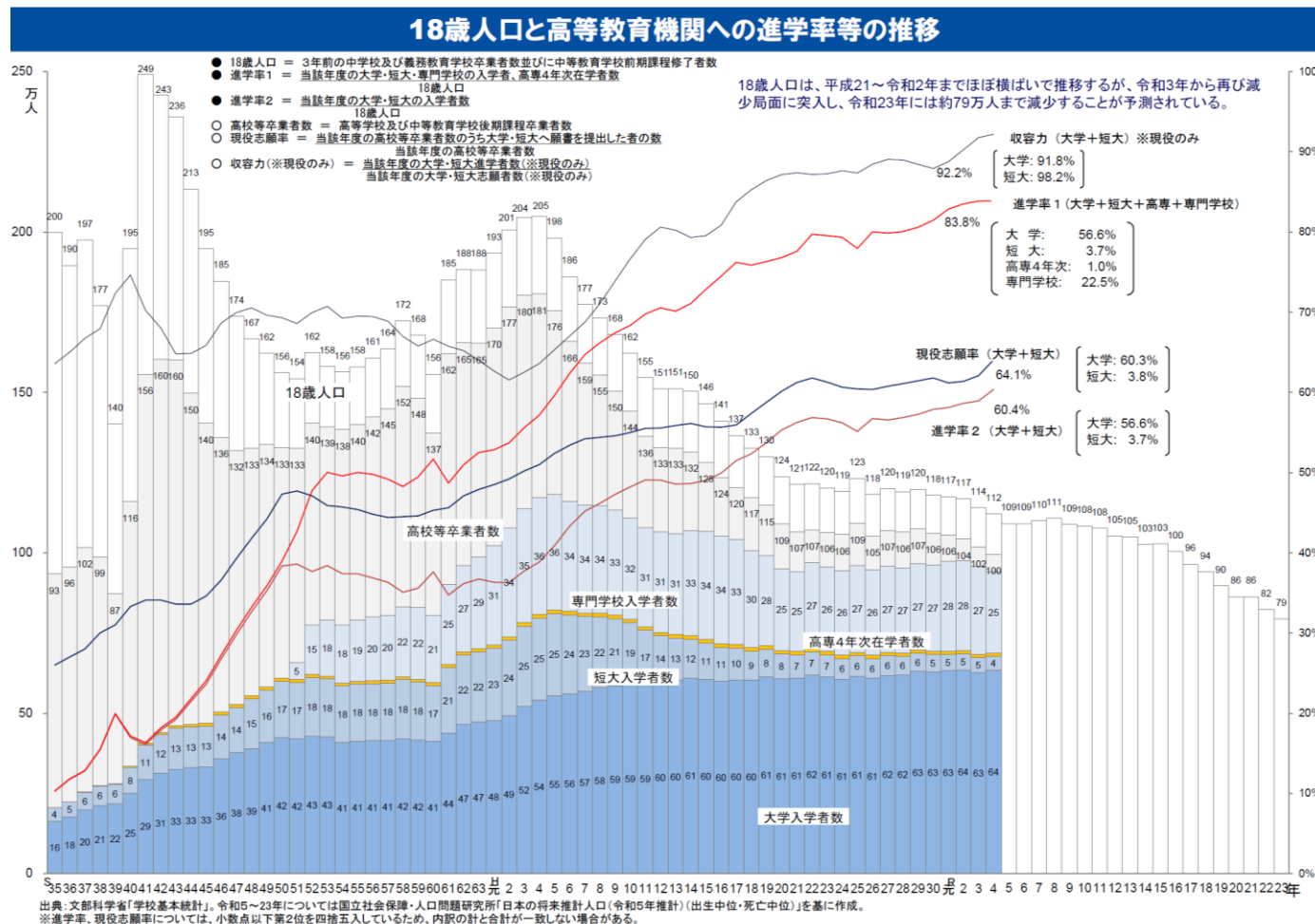
そのため、市内大学等では、老朽化した施設の建て替え等をきっかけとしたキャンパスの再構築が進んでいます。



出典：大学コンソーシアム八王子調査

2050年の大学進学者数

急速な人口減少に伴い、大学進学率の伸長を加味したとしても、2050年の大学進学者数は全国で約48万人と推計され、外国人留学生比率が現状のまま（3.07%）であった場合でも、現在の大学入学定員の規模が維持された場合には、定員充足率が約80%になると推計されています。

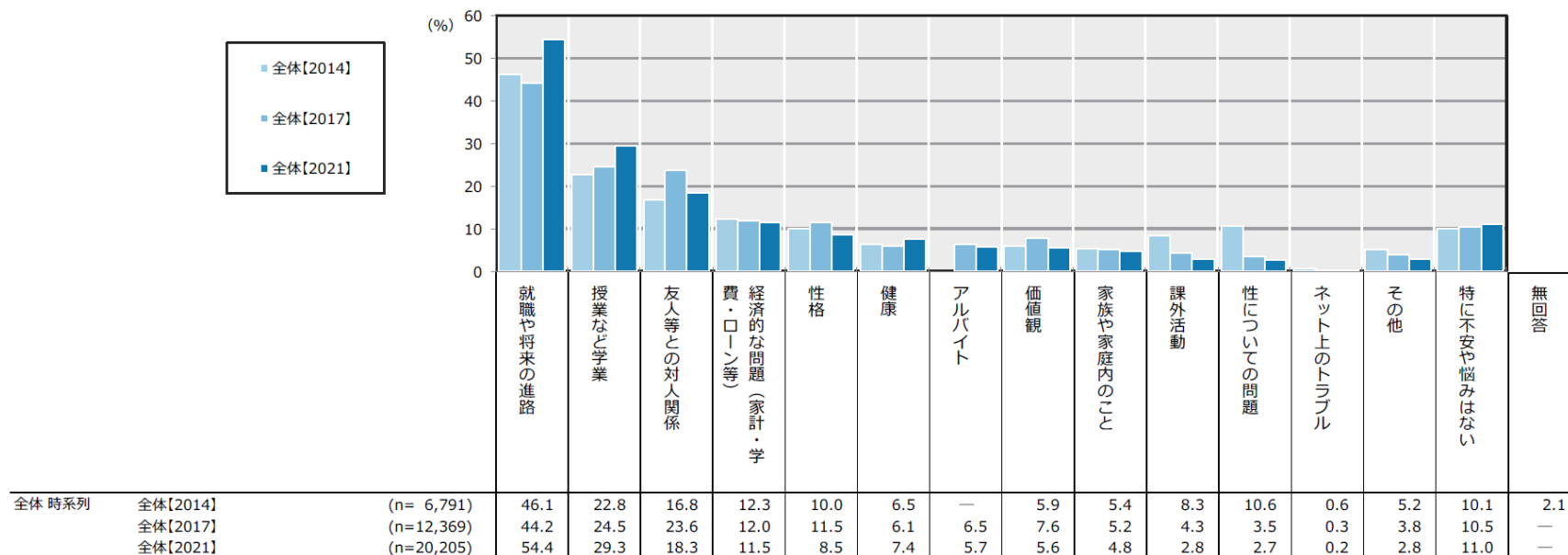


出典：中央教育審議会大学分科会（第174回）会議資料

現在の不安や悩みとして、半数以上の学生が「就職や将来の進路」を挙げています。また、就職内定率の推移をみると内定取得時期の早期化が進んでいることが分かります。

(1) 現在の不安や悩み

いま、あなたに不安や悩みがあるとすれば、それはどのようなものですか。(2つまで)



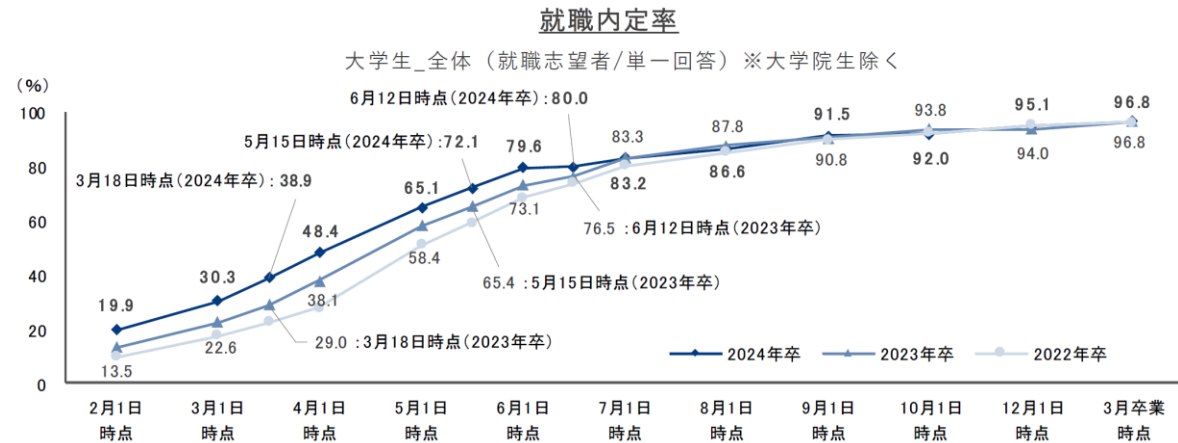
※「全体【2021】」で降順ソート

※「経済的な問題(家計・学費・ローン等)」は2021年文言変更、2017年までは「経済問題(家計・学費・ローン等)」

※「アルバイト」は2017年追加/「性についての問題」は2017年文言変更、2014年までは「異性問題」

出典：私立大学学生生活白書2022

(2) 就職内定率の推移



出典：(株)リクルート 就職プロセス調査（2024年卒）「2024年3月度（卒業時点）内定状況」

大学等における学び（正課教育）への満足度は上昇傾向にあり、大学等の「学修者本位の教育の実現」に向けた取組の推進やコロナ禍における授業のオンライン化による学習形態の変化が背景にあると考えられます。

(3) 正課教育満足度

【授業等、正課教育全体】について、満足度を教えてください。（1つだけ）

		よかった	よくなかった	どちらともいえない	無回答
●凡例					
全体【2017】	(n=12,369)	67.5%	4.6	27.9	
正課教育満足度・ 学生生活充実度別	正課教育満足度○学生生活充実度○ (n= 5,343)	89.2	0.9	10.0	
	正課教育満足度○学生生活充実度× (n= 1,038)	56.6	5.4	38.0	
	正課教育満足度×学生生活充実度○ (n= 3,614)	66.2	3.4	30.4	
	正課教育満足度×学生生活充実度× (n= 2,374)	25.4	14.4	60.2	

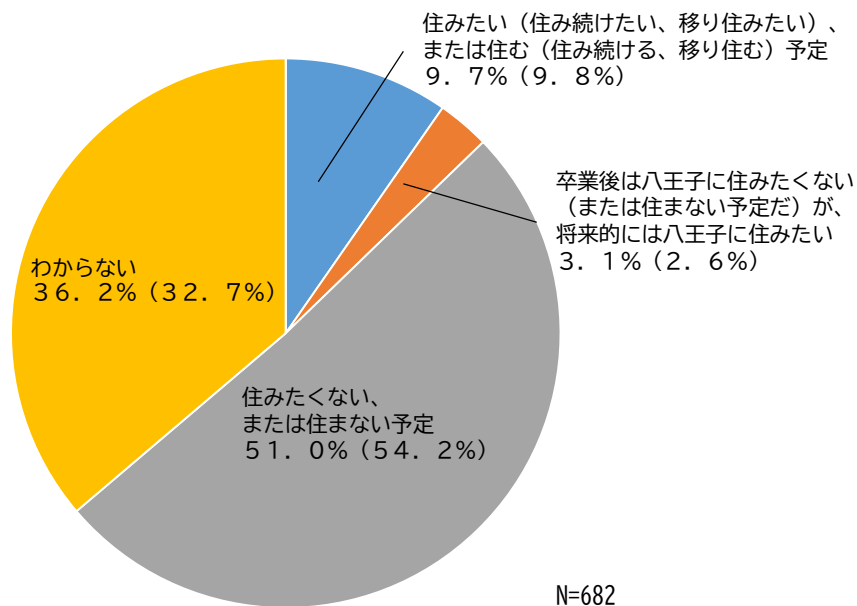
出典：私立大学学生生活白書2022

(4) 本市への定住意向 (第2期はちおうじ学園都市ビジョンアンケート調査(P. 57参照))

卒業後の八王子市への定住意向は前回調査(八王子市学生意識・希望調査(平成27年度(2015年度)実施))と類似の結果となりました。

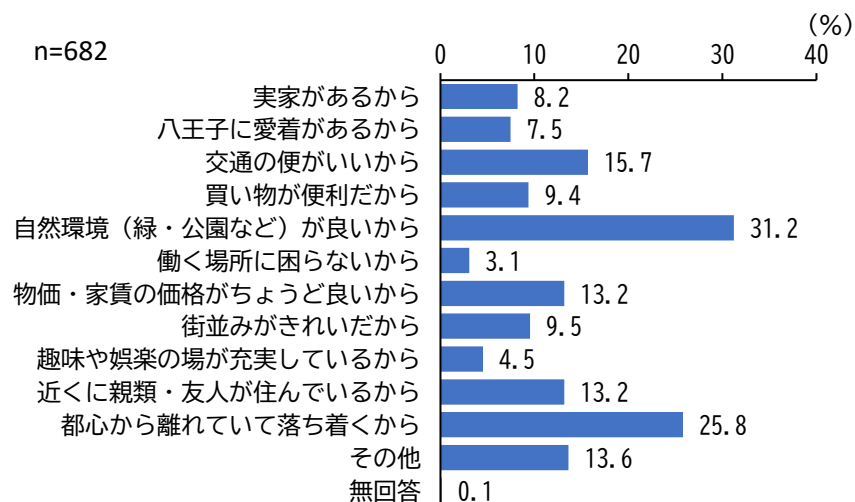
八王子市内に住みたい理由の内訳をみると、自然や交通などの環境面に関する点が多く挙げられています。なお、卒業後に八王子市内に「住みたい(住み続けたい、移り住みたい)、または住む(住み続ける、移り住む)予定」と回答した学生からは「趣味や娯楽の場が充実しているから」が最も多く、次いで「交通の便がいいから」が回答として挙げられました。

ア 卒業後に八王子市内に住みたいと思いますか、
または住む予定ですか。【1つ選択】※()内は前回調査結果



イ 八王子市内に住みたい理由【3つまで選択】

「自然環境(緑・公園など)が良いから」が31.2%で最も多く、次いで「都心から離れていて落ち着くから」が25.8%、「交通の便がいいから」が15.7%となっています。

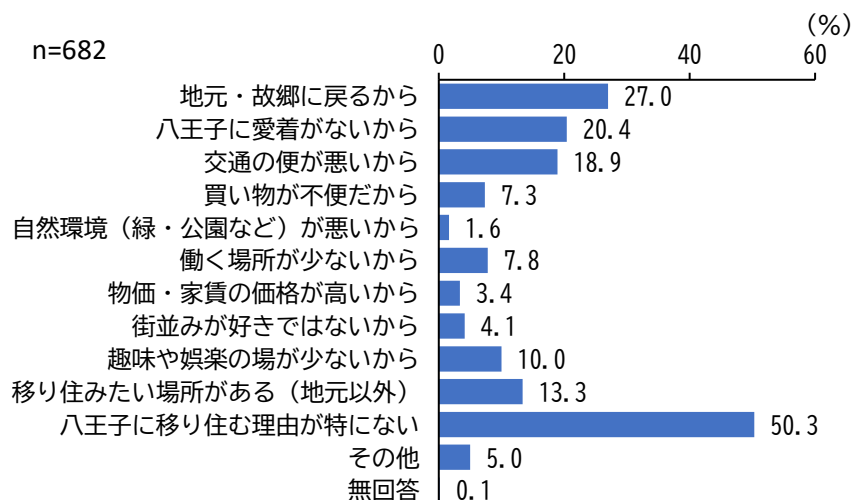


八王子市内に住みたくない理由の内訳をみると「八王子に移り住む理由が特にない」「地元・故郷に戻るから」「八王子に愛着がないから」の割合が多く、特定の理由を持たない学生が多くいることが分かります。なお、卒業後に八王子市内に「住みたくない、または住まない予定」と回答した学生からも同項目の回答が多くありました。

背景には、新型コロナウイルス感染症の影響によりキャンパスの閉鎖や授業がオンライン化するなど、学生が八王子の地に来て学ぶ機会が少なくなったことにより、地域の活動などに触れ、愛着を持つきっかけが減少したことが推察されます。

ウ 八王子市内に住みたくない理由【3つまで選択】

「八王子に移り住む理由が特にない」が50.3%で最も多く、次いで「地元・故郷に戻るから」が27.0%、「八王子に愛着がないから」が20.4%となっています。

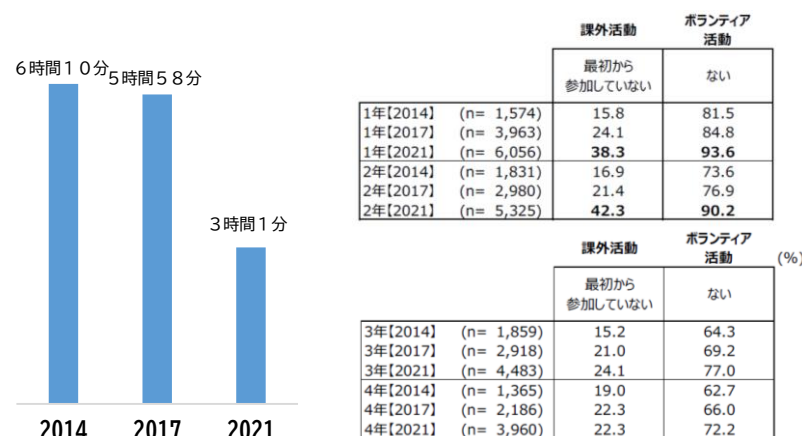


コラム

キャンパス滞在時間とボランティア活動

学生のキャンパス滞在時間は平成29年度（2017年度）調査と比較すると半減、またコロナ禍での入学生を主としてボランティア活動に参加していない学生数が大きく増加しており、新型コロナウイルス感染症の影響により様々な経験の場が失われたことが推察されます。

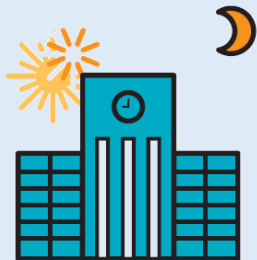
キャンパス滞在時間 (学年別傾向) 課外活動参加状況 (全体/単一回答)



出典：私立大学学生生活白書2022

第3章

ビジョンの全体像



1

基本理念・キャッチフレーズ

基本理念

大学等と地域がともに発展するまちづくり

本市は、大学等の行う高等教育の振興を通じて、大学等と地域が互いに交わり、支え合い、さらには、共創により新たな価値を創出することを通して、ともに発展するまちづくりの実現を目指します。

キャッチフレーズ

「まるごとキャンパス八王子」 ～学生、人材が「集う」まちに～

大学等と地域がともに発展するまちづくりを実現するためには、大学等が地域を実践の場として行う教育を支援し、地域の活性化につなげていくことが重要です。その結果、学生、市民が多様な地域の人材と資源との関わりを通じて「学び」「育つ」ことになります。さらには、地域で学ぶことを通じて、学生が八王子の魅力を発見し、将来のライフステージにおいて、本市が「働く」、「暮らす」、観光などで「訪れる」または地域と多様な形で「かかわる」場となることを目指します。

地域全体が学びの場となり、大学等と地域が連携し合う、「まるごとキャンパス八王子」～学生、人材が「集う」まちに～をキャッチフレーズとして推進します。

2

7つの基本施策

現状と課題を踏まえ、基本理念の実現を目指すために、7つの基本施策を定め、各種施策を体系的に推進します。

基本施策	2030年の目指す姿	施策の方向性
基本施策1 地域連携支援	大学等と地域が、課題と目標を共有し、ともに考え、解決に向けて主体的に取り組む関係性が築かれており、互いの発展に貢献している。また、地域での学びを通して、学生が主体性や課題解決の実践力を身に付けるとともに、地域への理解を深め、愛着が育まれている。	1 大学等と地域とのつながりづくり 《新規》
		2 行政と大学等との共創の推進 《新規》
基本施策2 産学公連携支援	本市の多様な産業と大学等が組織単位で連携する関係性を築き、互いのリソース、ノウハウを持ち寄ることで新たなイノベーションを創出している。	1 大学等と市内企業との連携促進
		2 産学公連携によるイノベーション創出の支援
		3 キャンパスの再構築を契機とした産学連携と地域振興の促進に向けた支援 《新規》
基本施策3 学生活動支援	学生が地域を舞台とした様々な活動を通じて地域住民と交流を持つことで「社会貢献意識・自己肯定感」を向上、「自己実現」を達成させ、地域の一員としていきいきと暮らし、地域に活力が生まれている。	1 地域で活動する学生の支援
		2 学生と地域活動を結ぶ機会の創出
		3 支援者間の接続の強化 《新規》
基本施策4 学生の就職支援	地域での学びや地域企業との交流を通じて学生が自身のキャリア形成に有益な体験を得て、将来のライフステージで本市で働くこと、暮らすことに魅力を感じている。	1 地域資源を活かした連携の推進による大学等のキャリア教育の支援 《新規》
		2 市内企業の魅力の発信
		3 市内就職及び定住の促進 《新規》
基本施策5 生活環境支援	学生が安全安心に暮らし、社会とのつながりを持ちながら自分らしいみちを歩める場所として本市に魅力を感じている。	1 安全・安心な学生生活を守る環境づくり
		2 学生の居場所づくり 《新規》
		3 大学等周辺部の基盤整備の促進
基本施策6 留学生支援	外国人留学生在が安全安心に暮らし、また多世代との交流など地域活動に参画することによって、国籍、民族、文化の違いを互いに認め合い、助け合い、活かし合いながら、ともに暮らす多文化共生のまちづくりが実現している。	1 外国人留学生への生活支援
		2 外国人留学生による地域活性化
基本施策7 生涯学習推進	各ライフステージにあわせて、大学等が学びを得る場となり、生涯にわたり切れ目なく学べる環境が整備されている。	1 多様な学びの環境づくり
		2 自己実現のための学びの支援
		3 大学等施設における市民の生涯学習の推進

「地域自治」と「共創」

本市では、令和5年（2023年）3月に基本構想・基本計画「八王子未来デザイン2040」を策定し、3つの重点テーマである「未来の主役づくり」「未来へのつながりづくり」「未来に続く都市づくり」を推進する取組を進めています。

また、前基本構想・基本計画「八王子ビジョン2022」の柱である「人とひととの支えあい、つながり」と市民・行政の互いの役割と責任ある行動による「協働」を継承しつつ、より発展的に捉えた「地域自治」と「共創」を「未来を拓く原動力」として掲げました。

この方針と連動したものとなるよう、本ビジョンにおいては、基本理念「大学等と地域がともに発展するまちづくり」の実現に向け、大学等がまちづくりにおける重要なパートナーであるという視点のもと、これらのキーワードを原動力として取組を推進していきます。

「地域自治」

地域が主体的に地域の魅力や課題を把握し、その向上や解決に向けて、地域の多様な活動団体や住民同士、地域と行政が協働していくための仕組みを構築する「地域づくり」を推進し、地域のことを自分たちで考え、行動することでみんなの幸せを実現するとしています。

「共創」

複雑化する社会課題に対応し続けるために、企業、大学などとの対話と共感を起点に、とも（共）に考え、創造していく仕組みを市が主体的に構築し、地域課題、社会課題のソリューションを創出する「共創」を継続できる社会を目指すとしています。

（例）大学等との共創により取組が期待されるテーマ

カーボンニュートラルの達成

八王子市地球温暖化対策地域推進計画

社会人の学び直し
（リカレント教育）の充実

八王子市生涯学習プラン

各地域の魅力を
活かしたまちづくり

八王子市地域づくり推進基本方針

DX化の推進

八王子市デジタル・トランスフォーメーション（DX）推進計画

産業の活性化

八王子市産業イノベーションプラン

部活動改革

部活動改革ガイドライン（仮）

文化財の保存と活用

八王子市文化財保存活用地域計画

学園都市づくり施策における数値目標は、施策の実施による直接の結果をアウトプット指標、その結果、本市にもたらされる効果をアウトカム指標として、基本構想・基本計画「八王子未来デザイン2040」及びその行動計画である「八王子市経営計画（重点事業編）」と整合を図っています。

また、「八王子未来デザイン2040」のうち、本ビジョンに関連する施策の指標についても、参考に記載します。

【アウトカム指標】市民の実感割合の推移をもとに、施策の効果検証を図ります。

重要業績評価指標（KPI）	現状値 （令和4年度（2022年度））	目標値 （令和12年度（2030年度））
大学等や学生がまちづくりにかかわっていると実感している市民の割合（％）	24.5％	50.0％

【アウトプット指標】大学等と本市との連携・協力事業数を増やしていくことで、行政が率先して学園都市づくりを推進します。

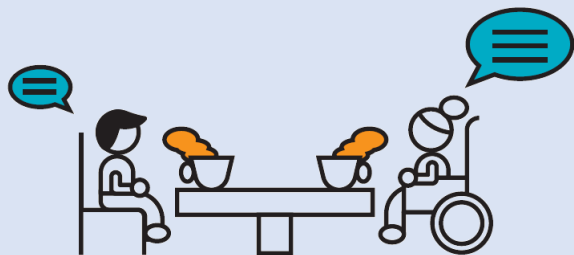
重要業績評価指標（KPI）	現状値 （令和4年度（2022年度））	目標値 （令和12年度（2030年度））
大学等と本市との連携・協力事業数（件／年間）	154件	256件

【参考指標】「八王子未来デザイン2040」のうち、本ビジョンに関連する施策に係る指標

重要業績評価指標（KPI）	現状値	目標値 (令和12年度（2030年度）)	関連する主な基本施策
学校と地域が連携して行う取組数	38,149件 (令和3年度（2021年度）)	62,700件	基本施策1 地域連携支援 基本施策3 学生活動支援
産産・産学連携による共同研究開発数	— 件	109件（累計）	基本施策2 産学公連携支援 基本施策4 学生の就職支援
地域に居場所があると感じている 子ども・若者の割合	子ども 88.5% 若者 64.7% (令和4年度（2022年度）)	子ども 90% 若者 75%	基本施策3 学生活動支援 基本施策5 生活環境支援
八王子市を「居心地の良い場所」 「訪れて楽しい場所」と感じている 市民の割合	82.1% (令和4年度（2022年度）)	90%	基本施策1 地域連携支援 基本施策5 生活環境支援
公共交通の利便性の満足度	64.5% (令和4年度（2022年度）)	75%	基本施策5 生活環境支援
外国人と交流したいと思う市民の 割合	52.7% (令和4年度（2022年度）)	65%	基本施策6 留学生支援
生涯学習活動をしている市民の割合	55.0% (令和4年度（2022年度）)	80%	基本施策7 生涯学習推進

第4章

基本施策



基本施策 1 地域連携支援

背景

- 1 国の「第4期教育振興基本計画」では、学習者を主体として、他者との協働や課題解決型学習（PBL）などを通じ、深い学習を体験し、自ら思考することを重視する考え方は、高等教育においても重要であり、大学等における課題解決型学習（PBL）などによるアクティブラーニングの充実に取り組む必要があるとしています。
- 2 「八王子未来デザイン2040」では、多様かつ複雑化している地域課題を地域の実情に合わせて解決するために、地域の多様な活動団体や住民同士、地域と行政が協働していくことを目的とした中学校区を基礎単位とする仕組みを構築する「地域づくり」を進め、地域のことを自分たちで考え、行動することで、みんなの幸せを実現していく「地域自治」の推進を掲げています。

現状

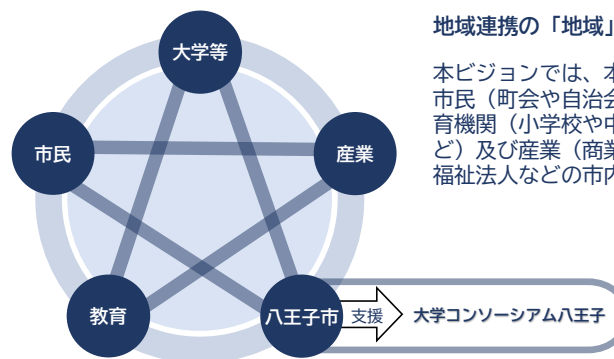
- 1 本市には、学生が地域で活動するうえで支援者・協力者となり得る、町会・自治会やNPO法人が数多く存在します。
- 2 第2期ビジョンアンケート（P. 57参照）より
 - （1）【大学等調査】自校と地域との関係性について理想とする姿として「地域のまちづくりに、研究成果が反映できている」と「地域をフィールドに実践的な教育が行われている」が最も多く、次いで「地域で存在感が高まっている」が多く挙げられています。
 - （2）【学生調査】八王子地域の人材や資源を活用した学びについて、3割の学生が「地域課題の解決策を考える授業（研究）」を受けてみたいと回答しています。また、授業や課外活動などで取り組んでみたい行政課題では「防災対策」「環境」「地域活性化」が上位に挙がっています。

課題

- 1 多様化、複雑化する地域課題・社会問題に対応するために、地域住民・行政・大学等・企業などの様々な主体が、課題と目標を共有し、組織間で持続的に連携していく関係構築が必要です。
- 2 大学等が行う教育活動における、地域をフィールドとした展開を支援することが求められています。
- 3 大学等有する専門知識、学生の発想を活かしたまちづくりを更に推進するとともに、その成果を広く発信していく必要があります。

2030年の目指す姿

大学等と地域が、課題と目標を共有し、ともに考え、
解決に向けて主体的に取り組む関係性が築かれており、
互いの発展に貢献している。また、地域での学びを通
して、学生が主体性や課題解決の実践力を身に付ける
とともに、地域への理解を深め、愛着が育まれている。



地域連携の「地域」とは？

本ビジョンでは、本市を構成する八王子市、市民（町会や自治会、NPO法人など）、教育機関（小学校や中学校、高等学校、大学など）及び産業（商業、農業、観光業、医療・福祉法人などの市内企業等）を指します。

施策の方向性

1 大学等と地域とのつながりづくり ≪新規≫

大学等を含む多様な主体が互いに連携しあうための共創の場づくりを進めることにより、大学等の地域資源を活用した教育を支援するとともに、学生の地域での学びを支援します。

【主な取組】

- 1-1-1 大学コンソーシアム八王子のさらなる活性化による加盟機関（大学等・市民・経済団体・企業・行政）間の連携強化
- 1-1-2 「地域づくり」の取組における、地域づくり推進会議と大学等との連携促進

2 行政と大学等との共創の推進 ≪新規≫

行政では、大学等を「共創」の重要なパートナーであるという認識のもと、積極的に連携を図り、地域課題の解決につなげることで、大学等の存在により地域が発展していると実感できるまちづくりを推進していきます。

【主な取組】

- 1-2-1 地域の課題解決に取り組む教育（課題解決型学習（PBL）授業など）への支援
- 1-2-2 大学等との連携・協働事業実施の促進
- 1-2-3 大学等との取組成果の積極的な情報発信

コラム

地域づくり推進会議

原則中学校区を単位として、町会・自治会をはじめとした地域団体や住民の皆様が参加し、地域に関する様々な議論を行う場として、本市が設置を進めている会議です。

地域のネットワークを構築するとともに、地域活動の新たな担い手を創出し、地域と行政のさらなる協働に取り組むことを目的として、地域の魅力や課題を再発見・共有しながら、参加団体や住民同士のつながりを増やしています。



地域づくり推進会議の様子

基本施策2 産学公連携支援

背景

- 1 文部科学省・経済産業省「産学官連携による共同研究強化のためのガイドライン【追補版】」では、産学官連携がイノベーションの創出による新たな価値の創造に貢献していくためには、研究者同士の個人的な連携にとどまるべきではなく、大学等と企業が互いを対等なパートナーとして認識し、ともに新たな価値の創造を志向した「組織」対「組織」の本格的な連携を行うことが重要となるとしています。
- 2 「八王子市産業イノベーションプラン」では、市域を超えた多様な組織・人材の交流と知識・技術の結合により、成長産業が創出されていることをあるべき姿に掲げ、大学等と本市の多様な産業との連携を推進するとしています。

現状

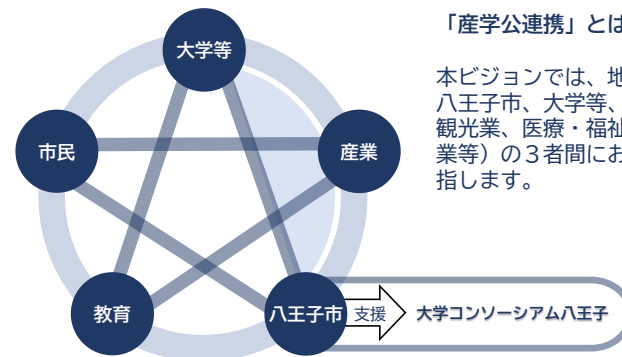
- 1 本市には、ものづくり企業をはじめ、商業、農業、観光業、医療・社会福祉法人が多数所在するなど、様々な産業が集積しています。
- 2 第2期ビジョンアンケート（P. 57参照）より
 - （1）【大学等調査】今後、産業界と連携して推進したい取組として「産業界の課題解決に授業などで教員や学生が取り組む（相談・コンサルティング等を含む）」「教員や学生と産業界での共同研究・共同開発」「学生の就職活動支援に産業界が参加する（求人票の提出や企業説明会への参加を含む）」が上位に挙がっています。
 - （2）【企業調査】8割の企業が大学等と産学連携に取り組んだことが「ない」と回答しています。理由としては、「興味はあるがきっかけがないため」が最も多く、次いで「産学連携に取り組む余裕（人材、資金等）がないため」が多くなっています。また、取り組んだことのある企業が「相手先を探した手段」は「教員との個人的な付き合い」と「独自にアプローチ」が最も多くなっています。

課題

- 1 大学等と市内企業との間における、ニーズ・シーズに関する情報共有や組織単位での連携が充実するよう、双方をつなぐマッチング、コーディネート機能の強化が必要です。
- 2 市内企業が直面する、技術・製品・サービス開発等に関する課題を解決し、新たなイノベーションを創出していくためには大学等が有する知的財産を活かした共同研究・共同開発が活発に行われるための支援が必要です。

2030年の目指す姿

本市の多様な産業と大学等が組織単位で連携する関係性を築き、互いのリソース、ノウハウを持ち寄ることによって新たなイノベーションを創出している。



「産学公連携」とは？

本ビジョンでは、地域連携のうち特に八王子市、大学等、産業（商業、農業、観光業、医療・福祉法人などの市内企業等）の3者間における連携のことを指します。

施策の方向性

1 大学等と市内企業との連携促進

大学等と市内企業との交流を通じて、共創のパートナーとしての関係性を築けるよう、連携の充実を図ります。

【主な取組】

- 2-1-1 大学コンソーシアム八王子のネットワークを活かした、大学等と市内企業の連携促進
- 2-1-2 公民共創プラットフォームへの大学等の参画支援 ≪新規≫

2 産学公連携によるイノベーション創出の支援

大学等の知的財産、学術研究の成果が企業課題の解決に結びつき、社会への貢献につながるよう、共同研究・共同開発を支援します。

【主な取組】

- 2-2 市内企業と大学等や公設研究機関との産学連携による研究開発や高度専門人材育成の促進

3 キャンパスの再構築を契機とした産学連携と地域振興の促進に向けた支援

≪新規≫

大学等の施設更新や用地の再構築の機会を捉え、教育環境の充実や、大学等と市内企業及び研究機関等との産学連携を促進する施設整備等を支援するとともに、大学等用地を活用した市産業及び地域振興に資する施設立地について支援します。

【主な取組】

- 2-3 大学等のキャンパスの再構築における土地利用に関する協議調整

コラム

公民共創プラットフォーム

公民共創を実現するためには、「対話」「共感（マッチング）」「事業構想」「PoC（実証実験）・事業実施」「評価」からなる共創サイクルを回す「仕組み」が必要となります。

これを「公民共創プラットフォーム」と定義付け、地域の様々な主体の参画を呼び込み、恒常的に共創サイクルが回る仕組みを構築します。

出典：八王子市産業イノベーションプラン

基本施策3 学生活動支援

背景

- 1 「八王子市生涯学習プラン」では、基本施策の1つに「学びから広がる地域づくり～いかす・つながる～」を掲げ、大学生等の若者が地域で活躍できる機会が充実し、地域が高めあって、協働している姿を目指しています。
- 2 「八王子市子ども・若者育成支援計画」では、若者の様々な活動を応援するため、企業や大学等、市民団体などとの連携を強化しボランティア活動など若者が活動の場を広げていけるよう支援していくことを掲げています。また、若者の提案を実現できるよう、若者の意欲ある活動への支援の推進に努めるとしています。

現状

- 1 本市では、社会福祉協議会や市民活動協議会などの地域活動支援機関が地域における学生を含む市民の活動を支援しています。
- 2 コロナ禍における行動制限の影響により、学生のボランティア参加率は減少傾向が続いています。
（（一社）日本私立大学連盟「私立大学学生生活白書2022」）
- 3 第2期ビジョンアンケート（P. 57参照）より
 - （1）【大学等調査】「学生活動を支援する上で地域（八王子市及びその周辺自治体の市域及びその市域内にある組織・団体・個人）に求める支援」として「大学等への（地域ニーズや支援事業などに関する）情報提供」が最も多く挙げられています。
 - （2）【学生調査】4割の学生が、ボランティア活動に参加したことが「ある」と回答しました。ボランティア活動に参加する目的としては、「社会勉強のため」が最も多く、次いで「困った人を助けたいから」「就職に役立てるため」が多くなっています。また、参加したいボランティア活動としては、「地域活性化」が最も多く、次いで「文化・スポーツ関係」「教育関係（小中高での活動など）」が多くなっています。

課題

- 1 地域活動に携わる行政、各種団体と大学等の担当窓口との間における、ニーズ・シーズに関する情報共有や組織単位での連携が充実するよう、双方をつなぐマッチング、コーディネートを図る仕組みづくりが必要です。
- 2 ボランティア活動に関心はあるものの、一歩踏み出せない、いわゆる「潜在的ボランティア層」への活動参加促進に向けた取組が必要です。
- 3 ボランティア活動に高い関心を持つ学生が、継続的・発展して地域貢献に取り組めるよう、活動に対する支援が必要です。

2030年の目指す姿

学生が地域を舞台とした様々な活動を通して地域住民と交流を持つことで「社会貢献意識・自己肯定感」を向上、「自己実現」を達成させ、地域の一員としていきいきと暮らし、地域に活力が生まれている。

施策の方向性

1 地域で活動する学生の支援

地域貢献の意欲を持つ学生が活動の場を広げるとともに、地域社会の一員として力を発揮できるよう支援します。

【主な取組】

- 3-1-1 学生が企画する地域活動への行政や地域活動支援機関による総合的な支援
- 3-1-2 地域での活動を通じた学生の居場所づくり 《新規》

2 学生と地域活動を結ぶ機会の創出

ボランティア活動に興味・関心のある学生が、新たに活動しやすく、また、志をともにする仲間を見つけ、より発展した活動につながる機会を提供します。また、活動の様子を広く周知することで、「潜在的ボランティア層」の活動参加を促します。

【主な取組】

- 3-2-1 教育現場などにおける学生の参加機会の積極的な創出
- 3-2-2 報告会など活動を知るきっかけづくりや活動する学生同士の交流の場の創出

3 支援者間の接続の強化

《新規》

学生の参加を求める地域と学生とのマッチングが円滑に展開されるよう、大学等の学生活動を支援する窓口と地域活動支援機関との窓口間の接続を強化します。

【主な取組】

- 3-3-1 大学等と地域活動支援機関との相互の接続強化
- 3-3-2 大学コンソーシアム八王子のさらなる活性化による加盟機関（大学等・市民・経済団体・企業・行政）間の連携強化（1-1-1再掲）

コラム

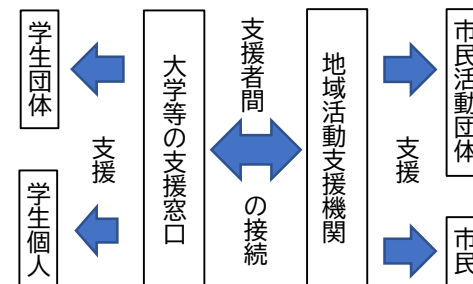
八王子学生委員会の主な活動 (P. 49 参照)

学生同士及び学生と市民の交流を目的に、学生目線による八王子の魅力や情報の発信に取り組んでいます。



「★学生天国★」の主催 情報誌の発行

本市では、大学コンソーシアム八王子事業などを通して、個人での活動はもちろんのこと、学生団体による地域活動への支援も積極的に行っています。



基本施策4 学生の就職支援

背景

- 1 経済産業省「未来人材ビジョン」では、次の社会を形づくる若い世代に対しては、「常識や前提にとらわれず、ゼロからイチを生み出す能力」「夢を手放さず一つのことを掘り下げていく姿勢」「グローバルな社会課題を解決する意欲」「多様性を受容し他者と協働する能力」といった、根源的な意識・行動面に至る能力や姿勢が求められるとしています。
- 2 「八王子市産業イノベーションプラン」では、施策の柱の1つに「産業人材の多様化と活用の促進」を掲げ、働く機会の創出として、市内中小企業へのインターンシップの促進（学生マッチング等）が示されています。

現状

- 1 企業説明会等への参加時期（ピーク）は、卒業・修了前年度の9月以前に参加したとする回答割合が上昇しており、早期化が進行している傾向にあります。また就職活動に要する期間は、「9か月間程度以上」の割合が約4割と最も高く、年々その割合は高まってきており、長期化の傾向にあります。
（内閣府「学生の就職・採用活動開始時期等に関する調査（令和4年度）」）
- 2 学生が学生生活で抱える悩みとして「就職や将来の進路」が前回調査から10ポイント以上増加し1位となっています。また、インターンシップの参加率・参加意向は年々増加しています。
（（一社）日本私立大学連盟「私立大学学生生活白書2022」）
- 3 第2期ビジョンアンケート（P. 57参照）より
（1）【大学等調査】学生の就職活動に対する支援として、今後、特に力を入れたい取組は、「インターンシップメニューの充実」が最も多く、次いで「授業などにおけるキャリア教育の充実」、「企業説明会の充実」が多くなっています。

課題

- 1 今後の社会で求められる人材を輩出するために、本市が有する地域資源を活用した学びを通じて、問題解決能力を育めるよう、大学等が行う教育や学生が自主的に企画する活動に対する支援が必要です。
- 2 市内で働く人材を確保するため、在学期間において、地域企業の事業活動や魅力を知る機会を積極的に創出することが必要です。
- 3 市内で働く人材を確保するため、大学等を卒業後も継続して定住することや、転職の際に市内企業への就職や起業を促す取組が必要です。

2030年の目指す姿

地域での学びや地域企業との交流を通じて学生が自身のキャリア形成に有益な体験を得て、将来のライフステージで本市で働くこと、暮らすことに魅力を感じている。

施策の方向性

1 地域資源を活かした連携の推進による大学等のキャリア教育の支援 《新規》

本市の多様な地域資源との関わりの中で行う、地域連携、産学公連携による連携事業や、学生活動を通して社会人として求められる能力や姿勢を身に付けるためのキャリア教育を支援します。

【主な取組】

- 4-1-1 地域への課題解決に取り組む教育（課題解決型学習（PBL）授業など）への支援（1-2-1再掲）
- 4-1-2 市内企業と大学等や公設研究機関との産学連携による研究開発や高度専門人材育成の促進（2-2再掲）
- 4-1-3 学生が企画する地域活動への行政や地域活動支援機関による総合的な支援（3-1-1再掲）

2 市内企業の魅力の発信

学生が希望する働き方を実現できるよう、就職の選択肢を広げるとともに、地域産業を支える人材確保を図ることを目的として学生に対する市内企業の魅力発信を支援します。

【主な取組】

- 4-2-1 インターンシップなどを通じた地域企業との交流機会の創出
- 4-2-2 大学等を対象とした地域企業の採用情報発信の支援

3 市内就職及び定住の促進 《新規》

学生、若者を対象として、大学等の卒業後などにおいて、本市を働く場所、住む場所として選ぶことにつながるような取組を進めます。

【主な取組】

- 4-3 卒業後の市内就職（転職・起業を含む）及び定住を促進する取組の推進



（公財）東京しごと財団「若者と企業の交流会 in 八王子」の様子
写真提供／（公財）東京しごと財団

基本施策 5 生活環境支援

背景

- 1 消費生活や男女共同参画など、各分野別計画において、学生を含む若年層への教育、意識啓発を推進施策として位置づけています。
(例) 消費生活基本計画、男女が共に生きるまち八王子プラン、八王子市再犯防止推進計画、八王子市自殺対策計画、八王子市健康医療計画
- 2 「八王子市交通マスタープラン（第3次八王子市総合都市交通体系整備計画）」では、将来交通のイメージの中で、目指す姿として通学に利用する公共交通機関の混雑軽減と利便性の向上を掲げています。

現状

- 1 令和4年（2022年）4月1日から民法上の成年年齢が20歳から18歳に引き下げられ、18歳、19歳にこれまで認められていた未成年者取消権が認められなくなりました。国では、関係省庁が連携して消費者教育に関する取組を推進しています。
- 2 第2期ビジョンアンケート（P. 57参照）より
 - (1) 【大学等調査】学生にとって八王子地域がどのようなまちであることを期待するかについては、「安心・安全に暮らせるまち」が最も多く挙げられています。
 - (2) 【学生調査】7割以上の学生が、消費生活（詐欺被害や契約上のトラブルなど）、健康（アルコールや喫煙に関する内容を含む）、性に関すること（LGBTQやハラスメントなど）について相談できる人が「いる」と回答しています。このうち、相談先として思い浮かぶ相手では、いずれも「家族」「友人（先輩後輩を含む）」という回答が多くなっています。一方、6割の学生が市役所の相談窓口で知っているものでは、「どれも知らない」と回答しています。

課題

- 1 学生が安全、安心な生活を送れるよう、消費生活、犯罪被害防止、健康づくり、保健衛生、交通安全などの分野において、学生が知識・理解を深められるよう、行政が取り組む必要があります。
- 2 学生が、ひとりで不安や悩みを抱え込まないよう、他者とのつながりを感じられる居場所づくりや相談支援の充実が必要です。
- 3 通学の利便性、安全性の向上や大学等の施設整備が適切な形で行われるよう、支援する必要があります。

2030年の目指す姿

学生が安全安心に暮らし、社会とのつながりを持ちながら自分らしいみちを歩める場所として本市に魅力を感じている。

施策の方向性

1 安全・安心な学生生活を守る環境づくり

学生が地域社会において安心して生活できるよう環境を整えます。

【主な取組】

- 5-1-1 消費生活や、交通安全、健康づくりや食育など、学生生活で役に立つ情報の発信や普及・啓発活動の実施
- 5-1-2 様々な生きづらさを抱える学生への支援
- 5-1-3 学生が住む場所として魅力を感じるような市街地環境の形成

2 学生の居場所づくり ≪新規≫

地域が学生にとって居場所と感じられる場所となることを目指して、取組を進めます。

【主な取組】

- 5-2-1 学生が充実した生活を送るための、一人ひとりに寄り添った支援や情報の提供
- 5-2-2 地域での活動を通した学生の居場所づくり（3-1-2再掲）

3 大学等周辺部の基盤整備の促進

公共交通機関の利便性向上や大学等の施設整備に関わる支援を進めます。

【主な取組】

- 5-3-1 交通の利便性向上
- 5-3-2 大学等のキャンパス・施設や周辺道路の新設、または整備時における情報共有などの協力

コラム

若者総合相談センター

若者（高校生世代～39歳）とその家族を対象とした、相談窓口です。

学生生活のこと、進路や就職のことなど、若者の悩みをなんでも受け止め、適切な支援につなげていく相談支援のほか、人や地域と関わるプログラム活動、自分のペースで過ごせるフリースペースを提供しています。

また、地域若者サポートステーションを併設しており、就職まで切れ目ない支援を実施しています。

ホームページは右の二次元コードをご参照ください。



施設の様子

基本施策 6 留学生支援

背景

- 1 教育未来創造会議「未来を創造する若者の留学促進イニシアティブ<J-MIRAI>」（第二次提言）では、令和15年（2033年）までの目標として指標を以下のとおり設けて進捗状況のフォローアップを行うとしています。
 - （1）日本人留学生数（コロナ前：17.5万人）及び外国人留学生数（コロナ前：31.2万人）をともに38万人に増
 - （2）高等教育機関卒業・修了後の外国人留学生（国内進学者を除く。）の国内就職率（平成30年（2018年）約48%から令和2年（2020年）に約40%まで減少）を60%に増
- 2 在留資格が「留学」の外国人市民は3,767人（令和5年（2023年）12月末）で、10年前と比較し、約1.9倍になっています。外国人留学生を受け入れている大学等も17校あるほか、大学等への進学を目指す外国人留学生を対象とした日本語学校の数も増えています。

現状

- 1 「第2期八王子市多文化共生推進プラン」では、基本目標の1つに「外国人市民も安心して暮らせるまち」を掲げ、外国人留学生への生活支援や外国人留学生による地域活性化を推進しています。令和3年（2021年）には、外国人留学生支援の事業を見直し、それまでの大学コンソーシアム八王子に加盟している大学等に在籍する留学生に加え、日本語学校や専門学校等に在籍する留学生まで支援対象を広げたほか、留学生のための生活ガイドの作成・配布や住居賃貸代行保証料等の補助金制度、地域活動への参加促進など、より生活に密着した支援を行っています。
- 2 第2期ビジョンアンケート（P. 57参照）より
 - （1）【大学等調査】留学生支援で力を入れたいことは、「就職支援」と「日本文化の体験」が最も多くなっています。留学生支援での課題は、「外国人留学生の相談（体調や生活のことなど）受付窓口」が最も多く、次いで「学内での日本人学生や教職員とのコミュニケーション」、「文化の違いなどを原因とした地域住民とのトラブルの発生」となっています。

課題

- 1 今後、本市でさらに増えることが見込まれる外国人留学生が、安全安心に暮らせるための生活支援の充実が必要です。
- 2 小中高の教育現場や地域活動など、学校生活以外での学びや交流機会の充実が必要です。

2030年の目指す姿

外国人留学生在が安全安心に暮らしており、また多世代との交流など地域活動に参画することによって、国籍、民族、文化の違いを互いに認め合い、助け合い、活かし合いながら、ともに暮らす多文化共生のまちづくりが実現している。

施策の方向性

1 外国人留学生への生活支援

外国人留学生の安全安心な学生生活を守る環境づくりを進めるとともに、日本国内での就職を希望する学生を支援します。

【主な取組】

- 6-1-1 住居確保や日本語学習に対する支援
- 6-1-2 日本での生活に必要な情報の発信
- 6-1-3 多言語による窓口対応、相談事業の充実
- 6-1-4 外国人留学生の進路支援

2 外国人留学生による地域活性化

外国人留学生ならではの視点や能力を活かして地域活性化を図るとともに、留学生活が充実するよう、地域活動への参画を促進します。

【主な取組】

- 6-2-1 地域活動と留学生のマッチング
- 6-2-2 外国人留学生との交流などを通じた児童・生徒への豊かな学びの提供



拓殖大学の外国人留学生と小学生が交流する様子
写真提供／拓殖大学



大学コンソーシアム八王子「山車曳き体験」で
八王子まつりに参加する外国人留学生

コラム

「助っ人留学生」制度による
地域活動と留学生のマッチング

外国人留学生と、市内で開催されるイベントのサポートや通訳・翻訳など、地域を助けるさまざまな活動をマッチングする制度です。

地域交流をしたい外国人留学生に、高尾山観光案内や小・中学校のゲストティーチャーなど、八王子を盛り上げる活動を案内しています。

また、外国人留学生は多文化共生の重要な担い手であり、地域との交流を通じて多文化共生の推進も図られています。



高尾山でガイド活動に
取り組む外国人留学生

基本施策 7 生涯学習推進

背景

- 1 国では、文部科学省・厚生労働省・経済産業省の連携のもとで、コロナ禍における社会情勢等を踏まえた、社会のニーズに対応したリカレント教育の基盤整備や産学連携による実践的なプログラムの拡充等による出口一体型リカレント教育を推進することにより、誰もがいくつになっても新たなチャレンジができる社会の構築を目指しています。（令和4年度職業実践力育成プログラム及びキャリア形成促進プログラム実施機関向けリカレント教育説明会資料）
- 2 「八王子市生涯学習プラン」においても、基本施策の1つに「誰もが学べる環境づくり～まなぶ～」を掲げ、誰もが、いつでも、どこでも、学べる環境で、生涯にわたり多様な学びに取り組んでいる姿を目指すとしています。

現状

- 1 市政世論調査（令和4年（2022年）実施）では、何らかの生涯学習活動に取り組んでいる割合は、平成28年（2016年）の61.9%から減少傾向に、令和4年（2022年）には55.1%となっています。また、取り組んだ生涯学習活動の中でも「学校（高等・専門・各種学校、大学、大学院など）の正規課程での学習」は3.6%でした。
- 2 八王子学園都市大学（P. 54参照）では、大学コンソーシアム八王子加盟25校などから提供される年間約300講座を開講しており、令和4年度（2022年度）末時点で累計13万人以上が受講しています。
- 3 第2期ビジョンアンケート（P. 57参照）より
 - （1）【大学等調査】地域住民を対象とした講座を開講する場合の課題として「周知」が挙げられています。
 - （2）【企業調査】大学等が開講する講座に対して期待することは「社員が、より専門性の高い知識を得ることができる」が最も多く挙げられています。
 - （3）【小学校・中学校調査】大学等との連携で推進したいこととして、「留学生と児童生徒の交流機会・場所の増加」、「総合的な学習の時間や、ニーズに応じた特別授業やワークショップの提供等」、「クラブ活動・部活動で大学等（教員・学生）に協力を得る」が上位に挙げられています。
 - （4）【高等学校調査】「総合的な探究の時間や、ニーズに応じた特別授業やワークショップの提供等」、「生徒へのキャリア教育・進路指導（大学進学を含む）を大学等と連携して行う」が上位に挙がっています。

課題

- 1 「学園都市」という本市の特性を活かし、世代を問わず、大学等の特色を活かした学習の機会など、全てのライフステージに合わせた生涯学習を展開していく必要があります。

2030年の目指す姿

各ライフステージにあわせて、大学等が学びを得る場となり、生涯にわたり切れ目なく学べる環境が整備されている。

施策の方向性

1 多様な学びの環境づくり

小中高大連携や大学間連携を推進し、児童・生徒・学生が大学等の特色ある多様な「知」に触れることのできる環境づくりを進めます。

【主な取組】

- 7-1-1 日本人学生や外国人留学生との交流などを通じた児童・生徒への豊かな学びの提供
- 7-1-2 高大接続による高校生の課題の発見と解決に向けた主体的・協働的な学びの推進
- 7-1-3 単位互換制度等による多様な学びの機会の提供

2 自己実現のための学びの支援

大学等での学びを得る機会を広く創出することで、社会人の学び直し（リカレント教育）や健康寿命の延伸につながる生涯学習の取組などを促進します。

【主な取組】

- 7-2-1 社会人の学び直し（リカレント教育）を支援するための大学等との密な相互連携
《新規》
- 7-2-2 市民への大学等での学びの機会の提供

3 大学等施設における市民の生涯学習の推進

大学等施設（図書館施設や運動施設など）の市民利用に関する情報提供を行うことで、市民の生涯学習活動の充実を図ります。

【主な取組】

- 7-3 大学等の施設開放状況に関する情報集約と市民への情報提供



「高校生まちづくり提案発表会」で交流する東京家政学院大学学生と高校生



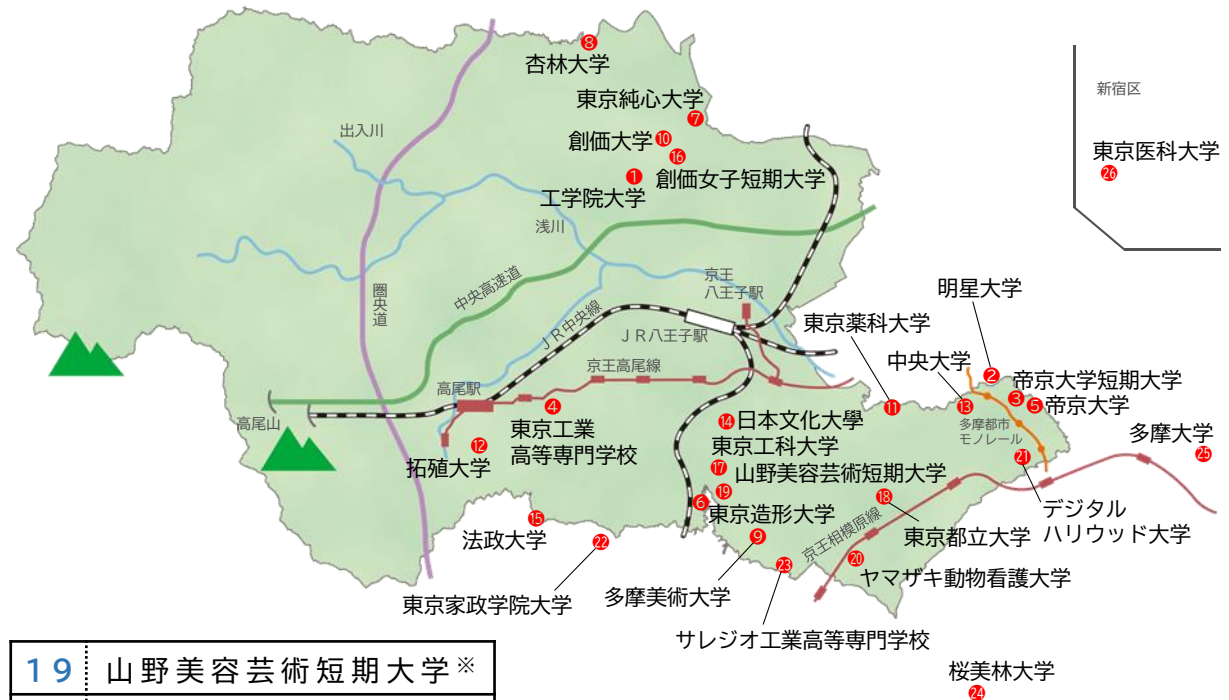
帝京大学「社内AI活用推進リーダー育成プログラム」の様子 写真提供／帝京大学



杏林大学「高齢社会における地域活性化コーディネーター養成プログラム」の様子 写真提供／杏林大学

本市と連携する26大学等

NO	学 校 名
1	工 学 院 大 学 ※
2	明 星 大 学 ※
3	帝 京 大 学 短 期 大 学
4	東 京 工 業 高 等 専 門 学 校
5	帝 京 大 学
6	東 京 造 形 大 学 ※
7	東 京 純 心 大 学 ※
8	杏 林 大 学
9	多 摩 美 術 大 学
10	創 価 大 学 ※
11	東 京 薬 科 大 学 ※
12	拓 殖 大 学 ※
13	中 央 大 学 ※
14	日 本 文 化 大 学
15	法 政 大 学
16	創 価 女 子 短 期 大 学
17	東 京 工 科 大 学 ※
18	東 京 都 立 大 学 ※

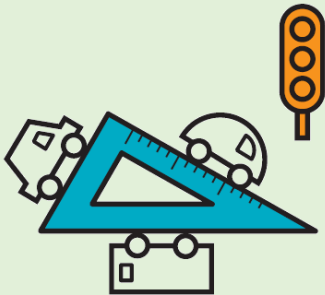


19	山 野 美 容 芸 術 短 期 大 学 ※
20	ヤ マ ザ キ 動 物 看 護 大 学
21	デ ジ タ ル ハ リ ウッド 大 学
22	東 京 家 政 学 院 大 学
23	サ レ ジ オ 工 業 高 等 専 門 学 校
24	桜 美 林 大 学
25	多 摩 大 学
26	東 京 医 科 大 学 ※

市内立地校・・・NO. 1～21
 大学コンソーシアム八王子加盟校・・・NO. 1～25
 ※包括連携協定締結校

第5章

ビジョンの推進にあたって

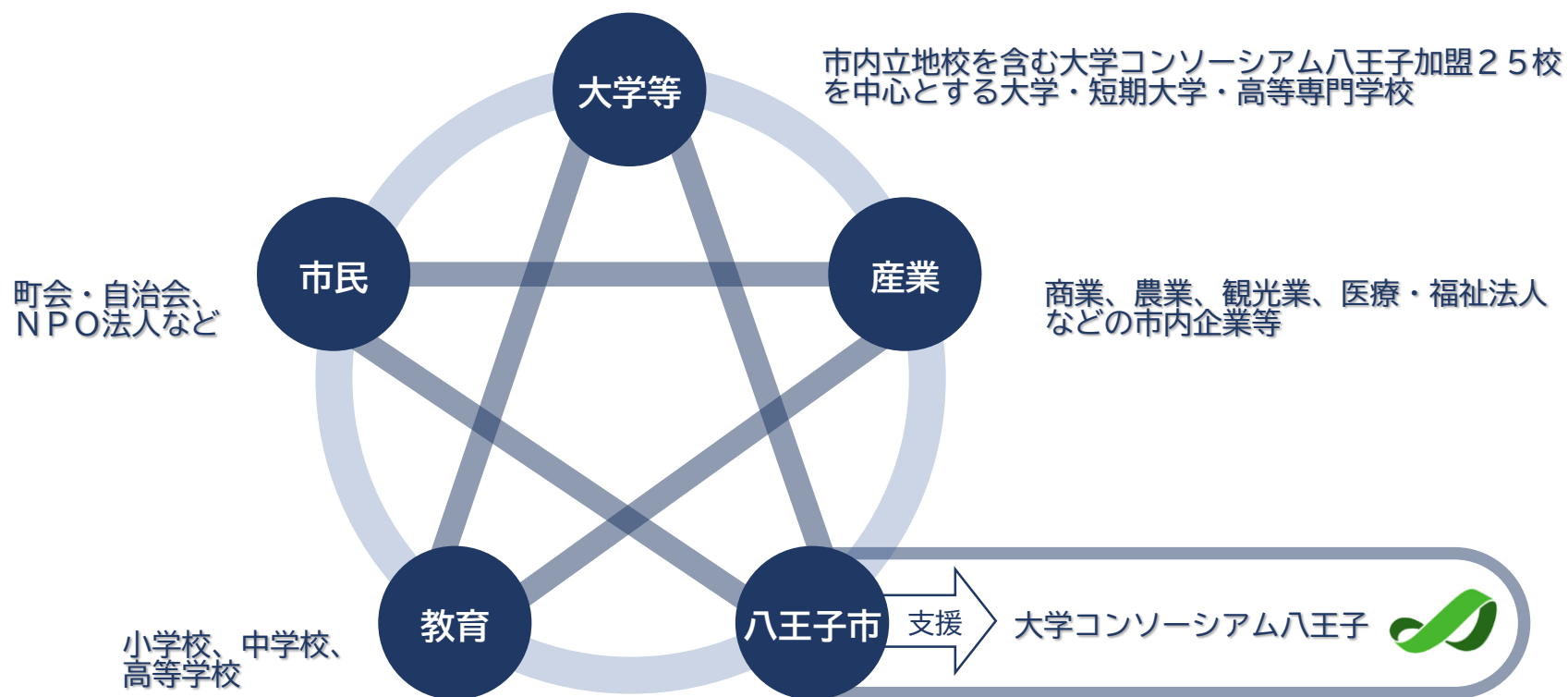


1

推進体制

本ビジョンでは、学園都市づくりのパートナーとして支援する大学コンソーシアム八王子とともに、市民、大学等、企業等と連携することで取組を推進します。

なお、国や東京都の動向、学生数の推移を中心とした社会情勢の変化などを踏まえ、必要に応じて内容の見直しを行います。



大学コンソーシアム八王子 加盟機関

：25大学等、八王子商工会議所、八王子市学園都市推進会議、
八王子学生委員会、（公財）八王子市学園都市文化ふれあい財団、
（公財）大学セミナーハウス、NPO法人八王子市民活動協議会、八王子市

学園都市づくりを支える組織

本市では、大学コンソーシアム八王子を中心として、学園都市づくりの推進を目的として下記の団体が活動しています。
これらの組織は「学園都市八王子」で活動する大学等、産業、市民、教育、行政の各主体同士の架け橋となり、地域連携や産学公連携による取組を推進しています。



大学コンソーシアム八王子

加盟する八王子市周辺部も含めた25大学等、八王子商工会議所、八王子市学園都市推進会議、八王子学生委員会、（公財）八王子市学園都市文化ふれあい財団、（公財）大学セミナーハウス、NPO法人八王子市民活動協議会、八王子市が連携・協働し、より一層魅力ある学園都市を目指して高等教育の充実、地域社会の発展等を図るための各種事業を実施しています。



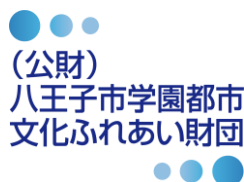
八王子市学園都市推進会議

市民と大学と行政が一体となった創造的学園都市づくりを目指して発足した団体で、法人会員・個人会員の協力のもと、運営されている市民のボランティア団体です。



八王子学生委員会

八王子地域の学生が集まり、学生の魅力や情報の発信、学生同士及び学生と市民の方々との交流を目的に活動しています。



(公財) 八王子市学園都市文化ふれあい財団

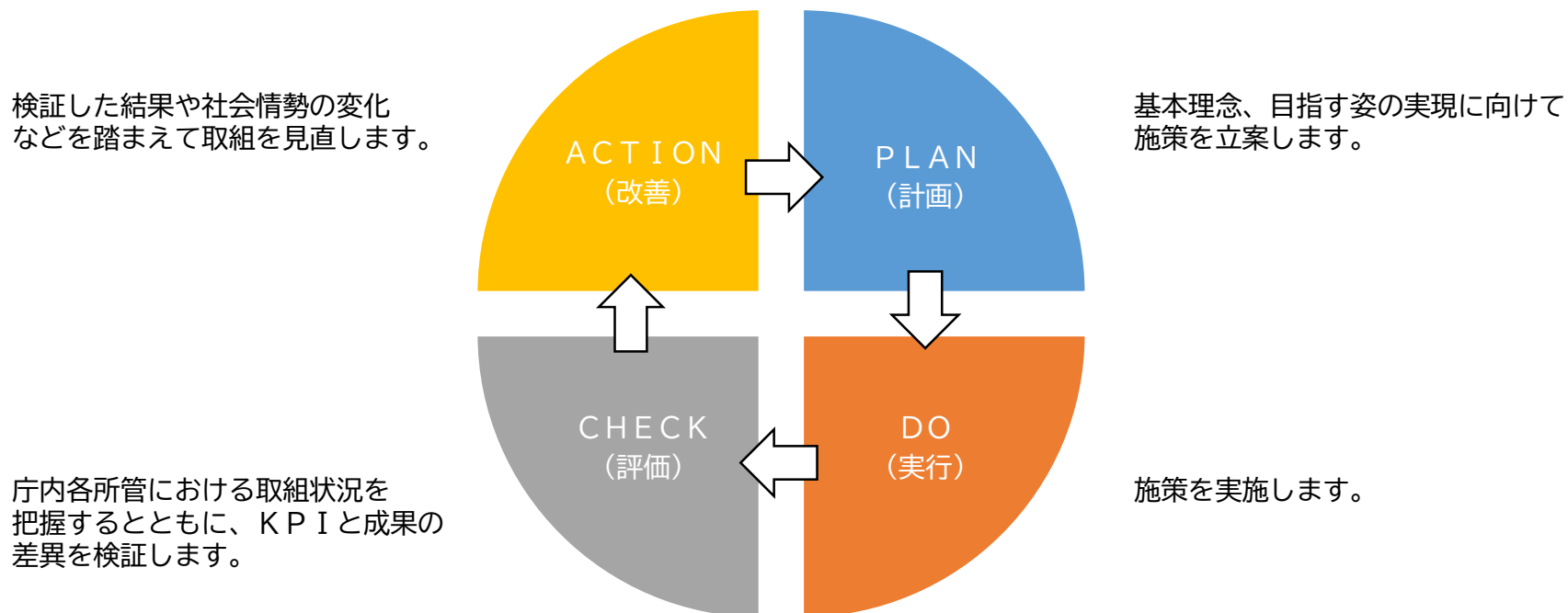
芸術・文化・コミュニティ及び学園都市づくりの推進を図るとともに、市民の自発的な学習活動の振興を図り、豊かな市民生活といきいきとした地域社会の発展に寄与することを目的に多様な事業を展開するほか、大学コンソーシアム八王子、八王子市学園都市推進会議、八王子学生委員会の事務局を担っています。

2

進行管理

本ビジョンを実効性のあるものとするために、P（PLAN：計画）、D（DO：実行）、C（CHECK：評価）、A（ACTION：改善）のマネジメントサイクルに基づき、進行管理とともに点検・評価し、評価結果をもとに、各基本施策における取組について、柔軟に見直し・改善を行います。

なお、学園都市づくりにおける施策の評価は、数値の増減だけでは表せない部分もあることも留意し、定性的な効果の把握にも努めながら、効果的・効率的な事業実施となるよう取り組んでいきます。



資料編

1

八王子市の学園都市づくりのあゆみ

昭和34年（1959年）

「首都圏の既成市街地における工場等の制限に関する法律」制定

昭和38年（1963年）

最初の大学として工学院大学が進出

昭和39年（1964年）～昭和53年（1978年）

16校の大学等が進出

昭和54年（1979年）

基本構想の都市像の1つに「歴史と文化を創造する学園都市」を掲げ、以後、市の基本構想・基本計画で学園都市づくりを施策として位置づける

昭和54年（1979年）～平成4年（1992年）

6校の大学等が進出、國學院大學が移転

平成9年（1997年）

八王子市学園都市センター開館

平成15年（2003年）

学園都市づくりを推進する所管として市民活動推進部に学園都市文化課を設置

平成16年（2004年）

八王子学園都市大学（いちょう塾）開学

平成16年（2004年）

ヤマザキ動物看護大学が進出、戸板女子短期大学が移転

平成18年（2006年）

デジタルハリウッド大学が進出（内閣府「情報産業人材育成特区」認定）

平成19年（2007年）

共立女子大学移転

平成21年（2009年）

大学コンソーシアム八王子設立

平成27年（2015年）～平成29年（2017年）

12校の大学等と「包括連携協定」を締結

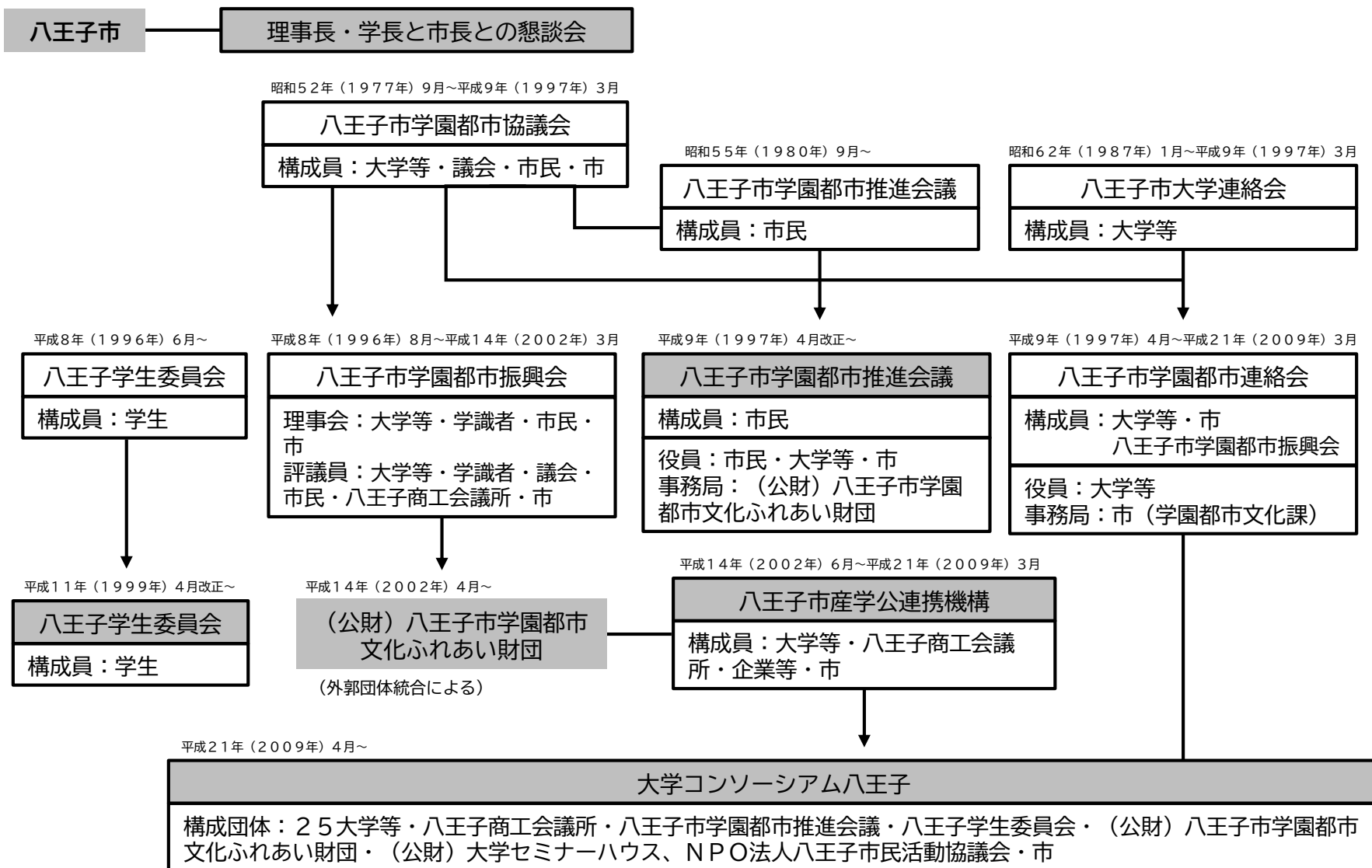
平成29年（2017年）

「はちおうじ学園都市ビジョン」策定

令和6年（2024年）

「第2期はちおうじ学園都市ビジョン」策定

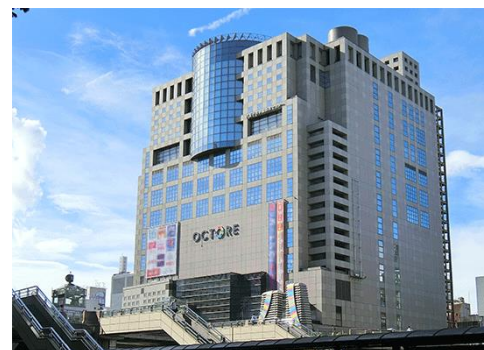
（１）学園都市づくりを支える市民・経済団体などの組織の変遷



(2) 八王子市学園都市センター

学園都市づくりの拠点施設として、市民と大学等との幅広い交流や文化活動の機会と場を提供するとともに、広く一般の方々の文化活動にもご利用いただくために平成9年（1997年）に開設しました。

本市の学園都市づくりを支える組織である、大学コンソーシアム八王子、八王子市学園都市推進会議及び八王子学生委員会の活動拠点として利用されているほか、八王子学園都市大学のメインキャンパスとなっています。



八王子スクエアビル11階・12階に設置

(3) 八王子学園都市大学(愛称「いちょう塾」)

地域の大学等と連携を図り、大学等の高度で専門的な学習機会を継続的に提供することにより、誰もが自由に学べる機会を確保し、市民の生涯学習に貢献することを目指し、平成16年（2004年）9月に開学した、市民大学です。（学校教育法に定める大学ではありません。）

ア 対象

原則18才以上で学習意欲がある方なら誰でも受講可能

イ 講座内容

正規科目講座：大学等のキャンパスで正規の学生とともに受講する講座

一般講座：大学等及び協力機関からいちょう塾のために企画提供される講座（主な会場は八王子市学園都市センター）

公開講座：無料で受講可能な、単発で開講される講座

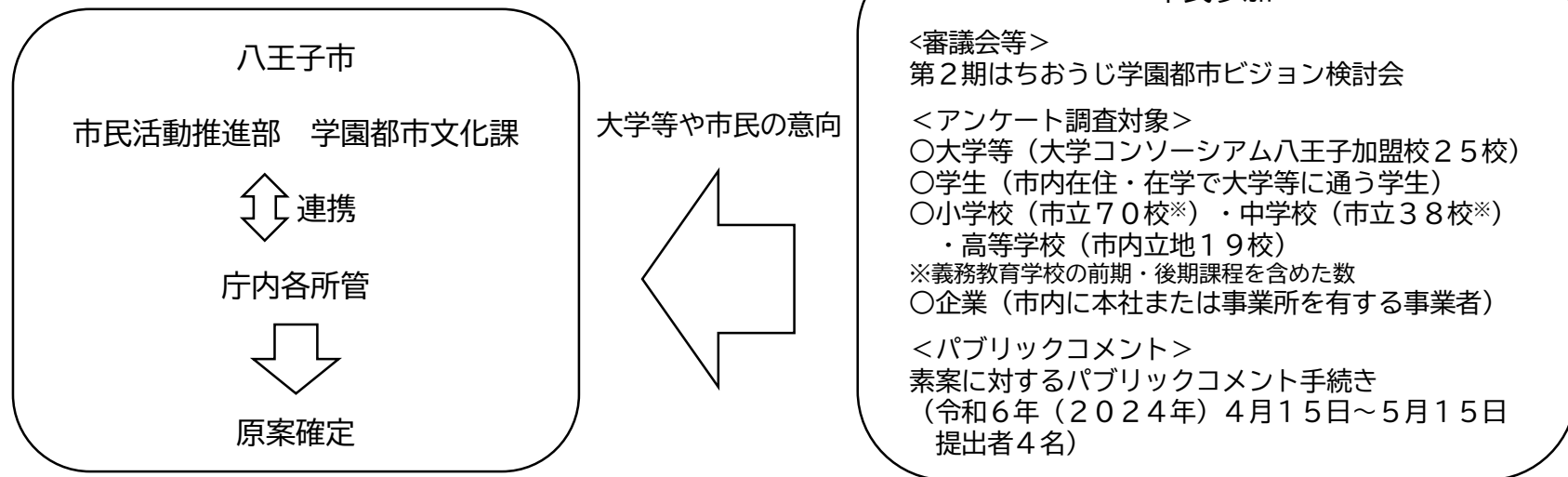
だれもが自由に学べる開かれた学び舎
八王子学園都市大学 いちょう塾
令和6年度前期(4~8月)
開講講座
受講生募集

問合せ・資料請求
八王子市学園都市大学事務局
(八王子市学園都市センター内)
〒192-0083 八王子市広野9-1
八王子スクエアビル11F
TEL 042-648-5621
<https://web01-class.jp/schools/web01class/w101/w101Page.do>

工学院大学
明星大学
東京工業高等専門学校
帝京大学
帝京大学短期大学
東京造形大学
東京純心大学
杏林大学
多摩美術大学
創価大学
創価女子短期大学
東京薬科大学
拓殖大学
中央大学
日本文化大学
法政大学
東京工科大学
東京都市大学
山野美容芸術短期大学
ヤマザキ動物専門学校
東京家政学院大学
サレジオ工業高等専門学校
デジタルハリウッド大学
桜美林大学
多摩大学

大学コンソーシアム八王子学生委員会 企画提供

年間で約300講座を開講。開講から20年で13万人以上が受講



（1）第2期はちおうじ学園都市ビジョン検討会

ア 会議などの開催経過

	日時	内容
第1回	令和5年（2023年）4月25日（火）	（1）「第2期はちおうじ学園都市ビジョン」策定概要 （2）アンケート調査 （3）表紙デザインの公募
第2回	// 7月28日（金）	（1）施策の体系（案） （2）骨子案（素案たたき台）
第3回	// 9月12日（火）	第2期はちおうじ学園都市ビジョン（素案）

イ 検討会 参加者名簿

選出区分	氏名（敬称略）	所属等（令和5年（2023年）9月時点）
学識経験者 （座長）	古本 泰之	杏林大学 外国語学部 教授 地域交流推進室 室長
大学等関係者 （副座長）	杉原 明	工学院大学 理事・総合企画部長
学識経験者	熊澤 義之	東京薬科大学 生命科学部 教授
大学等関係者	武地 紫	中央大学 学事部学事・社会連携課 課長
大学等関係者	豊嶋 信一	東京工科大学 八王子キャンパス学務部 部長
大学等関係者	河井 晋平	東京都立大学 管理部学長室 学長室長
団体等推薦	古瀬 智之	八王子市学園都市推進会議 理事
団体等推薦	小野 桂一	八王子商工会議所 中小企業相談所 所長
団体等推薦	石谷 結依	八王子学生委員会 委員長
団体等推薦	木村 美紀子	（公財）八王子市学園都市文化ふれあい財団 芸術文化振興課
市民代表	新 達也	八王子学園都市大学評議会 評議員
市民代表	有田 進治	八王子学園都市大学評議会 評議員
市民代表	高橋 今日子	南大沢中学校区 地域づくり推進会議 参加者

(2) 第2期はちおうじ学園都市ビジョンアンケート調査

ア 調査の目的

本調査は、第2期はちおうじ学園都市ビジョンの策定に当たり、市内の大学等、大学生、小学校・中学校・高等学校、企業の実態やニーズを把握し、ビジョン策定に必要な基礎資料とすることを目的として実施しました。

イ 調査期間

令和5年（2023年）5月1日～6月30日

ウ 調査の対象・調査の方法・調査票の回収状況

対象	調査の方法	調査票の回収状況
大学等 (大学コンソーシアム八王子加盟校25校)	大学コンソーシアム八王子事務局を通じてメールで調査票のデータを配付し、回収	配付数24票、回収数23票、回収率95.8%
学生 (市内在住・在学で大学等に通う学生)	大学等を通じたメール及び市広報SNSで周知し、Webアンケートで回収	回収数682票
小学校 (市立70校 ※義務教育学校前期課程を含む)	メールで調査票のデータを配付し、回収	配布数70票、回収数50票、回収率71.4%
中学校 (市立38校 ※義務教育学校後期課程を含む)	//	配付数38票、回収数28票、回収率73.7%
高等学校(市内立地19校)	//	配付数19票、回収数13票、回収率68.4%
企業 (市内に本社または事業所を有する事業者)	八王子商工会議所及び八王子市産業振興部産業振興推進課を通じてメールで周知し、Webアンケートで回収	回収数98票

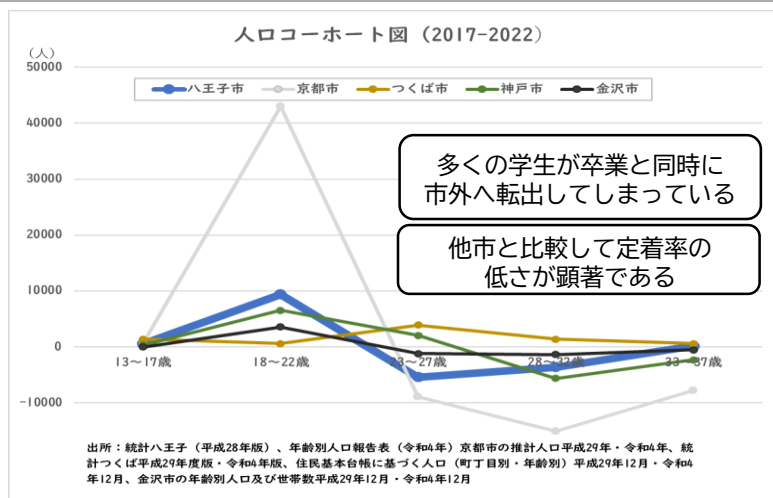
3

共同研究

学園都市八王子の学生定住の現状分析と、新たな地域交流の提案
～学生と地域の豊かな関係性を目指して～

本ビジョンの策定にあたり、制度経済学の視点からまちづくりを研究する帝京大学経済学部寺川ゼミナールと「八王子市における学生定住の検討」をテーマとして共同研究を実施しました。
ここでは、その概要を紹介します。

(1) 現状の分析と考察



◎なぜ八王子の学生は愛着を感じにくい？



...

若年転入人口獲得の機会を活かせず、定住に結びつけられていない

◎なぜ定住に結びつかない？

八王子市学生アンケート
(平成27年度・令和5年度実施)

○八王子市に住みたくない理由

- ・八王子市に移り住む理由が特にない
- ・八王子市に愛着がないから

という回答が **約7割**

進学により転入した学生の多くには
八王子市に住む積極的理由（必然性・愛着）がない

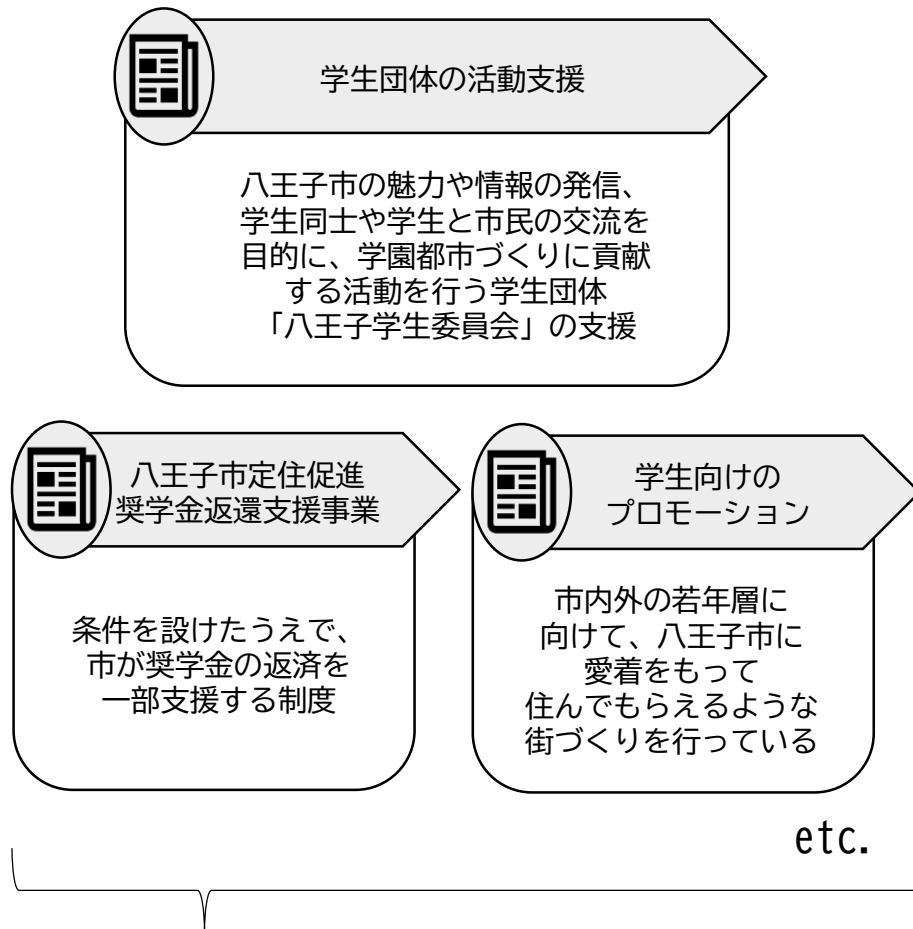
キャンパス周辺地域から隔絶され、近隣住民との交流もない
また、学生同士の交流の際にも学校周辺に滞留しない

学生がキャンパスの立地する土地に**愛着を持つようになる**とは考えにくい

学生街があるようなキャンパスでは学生と地域住民との有機的関係が形成された結果、学生は地域に対して愛着を持つようになる

八王子市は学生街のような歴史的に形成された社会関係資本が乏しく、それを醸成する場所がないからこそ、郊外型キャンパスならではの社会関係資本の形成を政策的に支援する必要がある

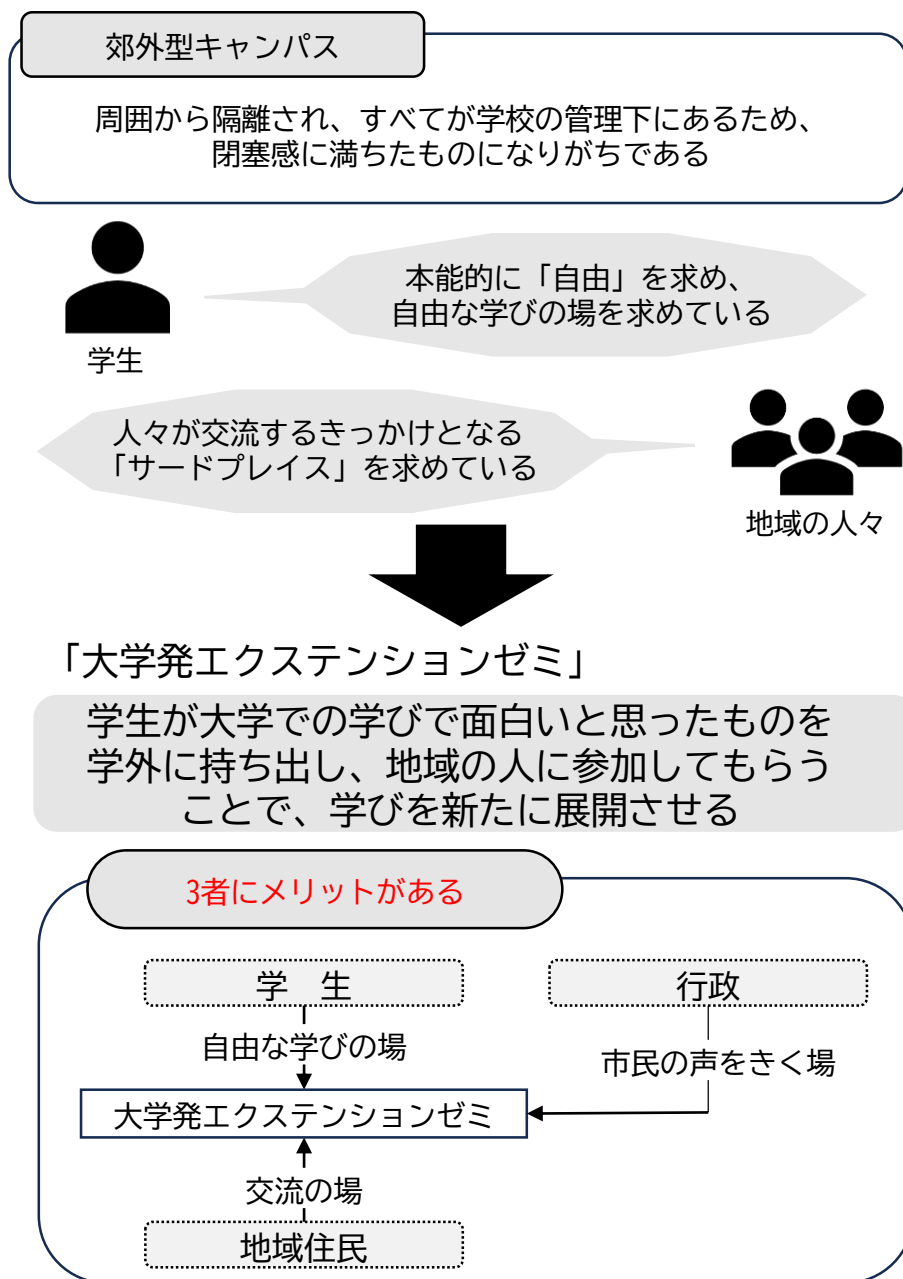
（２） 現行の市施策



八王子市アンケート
や学生の転出数から、
現行の施策の成果
では不十分であると
言える

③ 現行の施策に加えて、さらに
 ④ 学生が市民や行政と交流する
 ⑤ きっかけが必要である

（３） 展望と提案



第2期はちおうじ学園都市ビジョン
令和6年（2024年）8月

発行：八王子市

編集：市民活動推進部 学園都市文化課

〒192-8501

東京都八王子市元本郷町三丁目24番1号

電話：042-620-7409 FAX：042-626-0253

表紙・裏表紙デザイン：

東京造形大学 大学院 デザイン研究領域 TAN YOUNI

※本冊子は再生紙を使用しています。

あなたのみちを、
あるけるまち。

 **八王子**

